

アジア考古学Ⅰ

担当教員 宮城 弘樹

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

陶磁器は、考古資料の中でも耐久性が高く保存性に優れ、広くアジアに拡散した歴史的経緯から、沖縄をアジアの一員として諸地域と比較研究することのできる遺物の一つである。本講義では主に沖縄の遺跡出土の陶磁器を取り上げ、その研究方法とそこから導き出される考古学的解釈について講義する。また、調査された遺物や遺構といった考古資料は、博物館等で展示され広く市民に公開されている。展示の実例や遺跡整備の過程等文化遺産マネジメントについても講義する。モノ資料を見る技術を習得し、地域について考える力を育てる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入
2	考古資料の分析方法と記載方法
3	琉球列島における遺跡出土の土器・陶磁器（通史）
4	実物資料の観察（中国陶磁・白磁・ほか）
5	実物資料の観察（中国陶磁・青磁・青花・ほか）
6	陶磁器生産とその流通（窯跡と海底遺跡）
7	陶磁器を用いた社会像の復元（グスクと集落）
8	東南アジアの貿易陶磁
9	沖縄の陶器生産
10	地域の記録・伝承と遺跡調査
11	出土銭貨と貨幣史
12	文化遺産のマネジメント
13	遺跡整備と出土品の展示・保存
14	遺跡を核としたまちづくり
15	補足
16	まとめ・レポート提出

【履修上の注意事項】

講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語・飲食）は、心得ておくこと。また、課題などの提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けない。

【評価方法】

出席（60点）、レポート（40点）を評価対象とします。毎回講義終了時にリアクションペーパーを提出いただきます。レポートの評価基準は講義の中で提示します。

【テキスト】

授業では、要旨と各テーマに沿って関連する研究論文等を配布します。また、基本的に講義形式で行い、なるべく遺物などの実物資料に直接触れる講義を予定。他にも、実際の遺跡調査等のスライドを用いた授業を行います。

【参考文献】

授業の導入で、テーマ毎に紹介します。

アジア考古学Ⅰ

担当教員 宮城 弘樹

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

陶磁器は、考古資料の中でも耐久性が高く保存性に優れ、広くアジアに拡散した歴史的経緯から、沖縄をアジアの一員として諸地域と比較研究することのできる遺物の一つである。本講義では遺跡出土の陶磁器を取り上げ、その研究方法とそこから導き出される考古学的解釈について講義する。あわせて沖縄県内の文化財保護行政の実例を紹介し、考古学の担う社会的役割について学ぶ。

【授業の展開計画】

- ①導入
- ②考古資料の分析方法と記載方法
- ③琉球列島における遺跡出土の土器・陶磁器（通史）
- ④貿易陶磁の実物資料の観察（白磁）
- ⑤貿易陶磁の実物資料の観察（青磁・ほか）
- ⑥陶磁器生産とその流通（窯跡と海底遺跡）
- ⑦陶磁器を用いた社会像の復元（グスクと集落）
- ⑧東南アジアの貿易陶磁
- ⑨補足
- ⑩地域の記録・伝承と遺跡調査
- ⑪出土銭貨と貨幣史
- ⑫文化遺産のマネジメント
- ⑬遺跡整備と出土品の展示・保存
- ⑭遺跡を核としたまちづくり
- ⑮補足・まとめ・レポート提出

【履修上の注意事項】

講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語・飲食）は、心得ておくこと。また、課題などの提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けない。

【評価方法】

出席（60点）、レポート（40点）を評価対象とします。毎回事業終了時にリアクションペーパーを提出いただきます。レポートの評価基準は講義の中で提示します。

【テキスト】

授業では、内容に関連する研究論文等を配布します。また、基本的に講義形式で行い、遺物などの実物資料や実際の遺跡調査等のスライドを用いた授業を行います。

【参考文献】

授業の導入で、テーマ毎に紹介します。

アジア考古学Ⅱ

担当教員 江上 幹幸

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

東南アジア・オセアニアのひとびとが先史時代からどのような生活をしてきたかを民族考古学的観点から学ぶ。
フィールド

調査で得た資料をもとに、映像を交えながら東南アジア・オセアニアの人々が持つ基層文化を取り上げ、人々の生活を復元分析する。今年度は特に食に焦点をあて、食物の起源、伝播、調理法などを考古学、民族学を援用し、分析する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	東南アジア・オセアニアの地誌
2	東南アジア考古学史
3	東南アジア考古学史
4	東南アジアの先史考古学
5	東南アジアの先史考古学
6	東南アジアの先史考古学
7	オセアニアの考古学
8	オセアニアの考古学
9	焼石調理法の起源
10	焼石調理法の起源
11	焼石調理法の起源
12	ヤシ文化
13	ヤシ文化
14	ヤシ文化
15	まとめ
16	レポート作成

【履修上の注意事項】

意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

レポート提出

【テキスト】

授業で随時指示

【参考文献】

授業で随時指示

アジアの社会と文化 I

担当教員 タゲラス トライタット

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

アジアの社会と文化Ⅱ

担当教員 前田 一舟

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

アジア比較社会論

担当教員 河村 雅美

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アジアを扱った映画やドラマ、ドキュメンタリーなどの映像を素材として、「家族」「ジェンダー」「生命」「移動」などの問題をとおして、アジア社会を理解することをねらいとします。アジア内で国境を越えた動きについて、常に自分たちとのつながりを考えながら学ぶ機会としたいと思います。また、他の国、地域、社会、文化を「理解する」ことや、「比較」に必要な視点とは何か、についても考えていきます。

【授業の展開計画】

1テーマ、3-4回ずつのセッションを設け、各セッションにおいてグループでディスカッションする機会を設けます。

まず、イントロダクションでは、アジア（ここでは東南アジア）についての背景知識をつけ、これからアジア社会を見る時に必要な視点を学びます。その後、以下のとおり、人の移動、トランスジェンダー、生殖医療などの「いのち」の問題の3つのテーマのセッションをとおして、アジア社会を学んでいきます。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	1 イントロダクション (1)背景知識としての東南アジア
3	(2) 最近のニュース映像・映画などを用いて
4	(3) 「他者」を「理解」するとは？ “文化”が違うとは何か？
5	2 人が国境を越えて移動するということとは？
6	～フィリピン映画『母と娘』/を題材に
7	ディスカッション 総括
8	3 トランスジェンダーからみえるアジア社会
9	ドキュメンタリー『性を越えた性』やタイ映画『ビューティフル・ボーイ』（タイを題材）に
10	ディスカッション 総括
11	4 アジアにおける「いのち」の問題を考える
12	メディカルツーリズム、卵子提供や代理母などの「生殖医療」問題
13	などから アジアにおける「いのち」をめぐる問題について考えてみる。
14	ディスカッション 総括
15	予備日
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

-オリエンテーションで、最終的なシラバスや評価方法を説明しますので出席してください。

-留学生も大歓迎します。

【評価方法】

授業への参加姿勢（40点）、期末レポート（60点）を評価対象とします。以下を総合して評価します。

[授業への参加姿勢]授業に対するリアクション・ペーパーの提出。

[期末レポート]期末にレポートを課します。詳細は講義の中で提示します。

【テキスト】

授業では、レジュメを配布します。

【参考文献】

授業の中でテーマ毎に紹介します。

アジア文化概論Ⅰ

担当教員 石垣 直

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

よく「日本とアジア」といったテーマを耳にすることがある。それでは果たして「日本」とは何なのか、「アジア」とは何なのか、そしてわたしたちが住む「沖縄」とどのような関係があるのか？ 本講義では、東アジアの社会・文化にかんする基本的な知識を理解したうえで、そこにみられる差異と共通点について考えていくことを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「アジア」とは何か？
3	中国の社会と文化（1）——概要と歴史
4	中国の社会と文化（2）——「漢族」と周辺「民族」
5	中国の社会と文化（3）——親族関係
6	中国の社会と文化（4）——映像鑑賞
7	中国の社会と文化（5）——年中行事・宗教
8	朝鮮半島の社会と文化（1）——概要と歴史
9	朝鮮半島の社会と文化（2）——映像鑑賞
10	朝鮮半島の社会と文化（3）——親族と人間関係
11	朝鮮半島の社会と文化（4）——年中行事・祖先祭祀・宗教
12	朝鮮半島の社会と文化（5）——映像鑑賞
13	日本の社会と文化（1）——日本史と「文明の生態史観」
14	日本の社会と文化（2）——「日本」社会の成り立ちを問う
15	まとめ——東アジア世界と日本・沖縄
16	筆記試験

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（20%）、テスト（40%）、レポート（40%）
授業への出席および積極的な授業態度を重視する。その上で、学期末のテストならびにレポートの成績・内容を加味し、総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。（毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する）

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

アジア文化概論Ⅱ

担当教員 石垣 直

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

よく「日本とアジア」といったテーマを耳にすることがある。それでは果たして「日本」とは何なのか、「アジア」とは何なのか、そしてわたしたちが住む「沖縄」とどのような関係があるのか？ 本講義では、前期講義「アジア文化概論Ⅰ」で学んだ内容を踏まえながら、台湾や東南アジア地域およびオセアニア地域のさまざまな文化とその歴史の変容の在り方に注目することで、「日本」や「沖縄」の過去・現在・未来を見通す上で重要な「アジア・太平洋的視座」の涵養を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	台湾の歴史と現在（1）——概要
3	台湾の歴史と現在（2）——食文化・映像鑑賞
4	台湾の〈原住民族〉（1）——概要
5	台湾の〈原住民族〉（2）——ブヌン社会の過去と現在
6	近代日本による台湾統治・『台湾人生』——映像鑑賞
7	東南アジアの社会と文化（1）——「東南アジア」とは何か？
8	東南アジアの社会と文化（2）——映像鑑賞
9	東南アジアの社会と文化（3）——諸世界宗教の土着化
10	東南アジアの社会と文化（4）——フィリピン、イフガオ
11	東南アジアの社会と文化（5）——インドネシア、バリ島
12	オセアニアの社会と文化（1）——映像鑑賞
13	オセアニアの社会と文化（2）——大洋世界の基層文化
14	オセアニアの社会と文化（3）——ハワイの歴史・文化・現在
15	まとめ——アジア・太平洋世界的視座の重要性
16	筆記試験

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（20%）、テスト（40%）、レポート（40%）
授業への出席および積極的な授業態度を重視する。その上で、学期末のテストならびにレポートの成績・内容を加味し、総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。（毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する）

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

演習

担当教員 稲福 みき子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄を中心に周辺諸地域の民俗文化に関する基本的な論文を各自の関心に合わせて取り上げ、考察し、論文を作成するための基礎的な力を培うことをめざす。前期は、毎時間担当者を決め、レジュメを作り、発表を行い、質疑応答をする。夏期休暇に各自で調査を行う。後期は調査資料を整理、分析、考察して発表する。最終的にはそれらをまとめ、ゼミ調査レポート集を作成する。

【授業の展開計画】

前期

1 科目のオリエンテーション

2～13 論文のレジュメ発表と討論

14～15 夏期休暇中の調査計画

後期

1～10 調査報告と討論

11～15 調査レポートの作成

【履修上の注意事項】

【評価方法】

- ①出席を重視する。
- ②レジュメのまとめ方、発表力、調査力、討論への貢献度など総合的に評価する。

【テキスト】

講義の中で適宜紹介する。

【参考文献】

演習

担当教員 宮城 邦治

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習の集約的な演習であることから、前年度に決定した調査地とテーマを継続して調査するものである。これまでの調査で十分にデータができなかったことへの補足とデータの分析を中心として、次年度の卒業論文への繋ぎとなるものである。

【授業の展開計画】

- 前期) 「基礎演習」と「実習」で実施した調査候補地から、具体的な地域とテーマを決定し、調査を実施する。調査に際してメンバーを「自然班」「社会班」「文化班」に区分する。調査は毎月の金、土、日から実施可能な曜日一日を決め、できるだけ全員が参加して行い、その結果得られた情報や資料などについて、「演習」の際に報告させる。
- 後期) 前期同様に毎月の調査曜日一日を決め、前期に決めたグループを中心に調査を実施する。巡検、調査で得られた情報や資料などについては、「演習」の際に報告する。

【履修上の注意事項】

基礎演習、実習の継続的なものであることから、これまでの調査の反省と補足を十分におこなうこと。次年度の卒業論文の作成を見据えて、細やかな調査をおこなう事が肝要である。

【評価方法】

調査経過の発表と報告、授業への参加を勘案して評価する。

【テキスト】

調査地、テーマなどに関するテキスト、資料などは適宜告示または配布する。

【参考文献】

調査地、テーマなどの関する文献などは適宜告示または配布する。

演習

担当教員 田名 真之

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

2年次での基礎演習、実習を踏まえ、さらに一步踏み込んで南島歴史の世界を学ぶ。具体的には、前期前半は資料に関する知識、資料を扱う(読み解く)技術、歴史理論の向上を図るため論文を講読する。前期後半は事前に提示した課題から各自テーマを選択し、レポート作成と発表を行い、全員で批評、討論を行う。後期は各自でテーマを定めて、調査研究を行い、その成果を発表し、全員で批評、討論することを通して、課題や方向性を確認し、他のテーマについても学ぶ場とする。

【授業の展開計画】

前期

1. 史資料と文献について
2. 史料の扱い方、読み方、歴史理論
3. 論文講読
4. レポート作成・発表－全員での批評、討論

後期

1. 各自のテーマ設定(ゼミ論作成に向けて)
2. 調査研究
3. 成果の発表－全員での批評、討論

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の年間スケジュール説明	17	後期、ゼミ論(自由テーマ)の作成について
2	史料(基本文献・論文)講読－割り当て	18	史料講読－輪読 割り当て
3	同上－小論テーマ提示－各自選択	19	ゼミ論テーマの発表
4	同上	20	史料講読 同上
5	同上－各自、小論テーマ発表	21	同上
6	史料検索、閲覧－図書館郷土資料	22	同上
7	史料講読	23	同上
8	同上	24	同上
9	同上	25	ゼミ発表(各自20分)・質疑、応答
10	同上	26	同上
11	同上	27	同上
12	小論発表(各自20分)、質疑・応答	28	同上
13	同上	29	史料講読
14	同上	30	同上
15	同上	31	ゼミ論提出
16	小論提出		

【履修上の注意事項】

論文講読や各自の調査研究発表では、担当者だけでなく、全員が参加して授業を進めること。ここで設定したテーマが卒論へ繋がることもあるはずなので、自身の発表、また全員での批評、討論を通じてテーマへの理解が深まるよう努めること。

【評価方法】

出席状況と討論など授業参加の姿勢、テーマへの取り組み、発表内容など総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布。

【参考文献】

参考文献は適宜紹介。

演習

担当教員 石垣 直

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習の目的は、「社会」や「文化」に対する問題意識を明確にし、文献研究、現地調査、論文作成などを通じて、その問題意識を深化させることにある。演習の前期には、社会・文化人類学ならびにアジア関連の著作・論文を輪読し、各ゼミ生にレジュメ作成・発表をさせ、ゼミ生全体で議論を行う。さらに、夏休み中に各自（あるいは小グループ）で実地調査を行い、後期にはゼミ生間で調査成果を発表し議論を深める。最終的には各ゼミ生が調査・研究成果に基づいた論文を作成し、これをゼミ全体としてまとめる。

【授業の展開計画】

現実的に調査地域は沖縄本島および周辺離島に限定されるだろうが、できる限りゼミ生の興味・関心を尊重し、テーマとしては「アジア」や「沖縄」にかんするものであればとくに制限を設けない。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	データ整理・論文作法（1）
2	レポート・学術論文作法（1）	18	データ整理・論文作法（2）
3	レポート・学術論文作法（2）	19	データ整理・論文作法（3）
4	アジア・人類学関連文献の輪読（1）	20	調査成果発表（1）
5	アジア・人類学関連文献の輪読（2）	21	調査成果発表（2）
6	アジア・人類学関連文献の輪読（3）	22	調査成果発表（3）
7	アジア・人類学関連文献の輪読（4）	23	調査成果発表（4）
8	アジア・人類学関連文献の輪読（5）	24	中間発表（1）
9	テーマ設定と文献研究（1）	25	中間発表（2）
10	テーマ設定と文献研究（2）	26	補足調査・論文作成（1）
11	テーマ設定と文献研究（3）	27	補足調査・論文作成（2）
12	テーマ設定と文献研究（4）	28	補足調査・論文作成（3）
13	テーマ設定と文献研究（5）	29	ゼミ論文仮提出
14	調査計画の策定（1）	30	論文発表・検討会
15	調査計画の策定（2）	31	（予備日）
16	（予備日）		

【履修上の注意事項】

通常の講義科目とことなり、演習では各ゼミ生のより一層の主體的参加が求められる。文献研究やゼミでの発表・質疑応答を通じて、（卒業論文のテーマも視野に入れて）各自の問題意識を深化させてほしい。

【評価方法】

出席・授業への参加姿勢（50%）、調査成果・論文評価（50%）。出席および演習への参加姿勢を重視する。その上で、調査成果や論文の完成度合いに応じて総合的に評価する。

【テキスト】

演習のなかで適宜紹介。

【参考文献】

演習のなかで適宜紹介。

演習

担当教員 鳥山 淳

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

この講義は、2年次の基礎演習および実習の体験と成果をふまえつつ、平和研究の視点と方法を学び、各自が取り組むテーマを発見していくことを課題とする。テキストの輪読を通して知的好奇心を高め、各自が掘り下げていくテーマを見出していくことが重要である。それと並行して、平和研究に関連する社会的な活動に関心を持ち、その実践の場に参加してみるという姿勢を持てるように、いくつかの機会を設定していく予定である。

【授業の展開計画】

前期は全員で輪読するテキストを選択し、内容報告や問題点の発見を繰り返しながら、問題意識を深める。それをふまえて、夏期休暇中に各自がレポートを作成し、休暇明けに報告する。後期は個別報告を中心としながら、4年次にかけて取り組むテーマを各自が見出していくプロセスとする。その際に、問題意識を共有するグループ作業を取り入れることも検討していく。また前期・後期を通して、平和研究に関連する活動について情報を集め、その取り組みに参加できる機会があれば積極的に足を運ぶようにしたい。

【履修上の注意事項】

各自が問題意識をもって参加すること。

【評価方法】

出席と参加姿勢によって評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

演習

担当教員 上原 静

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

発掘調査に参加し、調査技術の修得に努めるとともに、前年分の調査報告書を作成し、発掘調査の学術的意義について認識を深める。報告書の作成に際し、琉球諸島の先史古代文化を熟知する必要がある、そのため県内各地の考古学調査の成果を各自分担で整理発表し、知識を深める。

【授業の展開計画】

全員が遺物の整理（図表等の作成）を行う。遺跡の概況、調査経過等のほかの遺物の記述を行う。上記を通して報告書の作成を実地に学ぶ。各自分担して県内各地の先史文化を調査研究し、発表を行う。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

文化財保護委員会『埋蔵文化財発掘調査の手引き』国土地理協会 1967

演習

担当教員 宮城 晴美

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

この科目は、一人ひとりが社会問題に関心を持ち、その中から課題を見つけて自ら学び、自ら考え、主体的に判断する力を身につけることをねらいとしています。とりわけ情報が氾濫するネット社会の中で、それに翻弄されることなく、多様な情報・資料を収集し、批判的に分析する力を習得することが望まれます。その手立てとして、映像や文献を通して歴史・社会的に学びながら、社会変動のプロセスの中で沖縄の位置づけを多軸的にとらえ、ジェンダー、植民地化など複眼でものを見ることによって、主体的・創造的自己形成をめざします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期イントロダクション	17	後期イントロダクション
2	映像・文献の選定と発表形式の説明	18	文献報告
3	映像鑑賞と講義	19	文献報告
4	報告と討論	20	文献報告
5	映像鑑賞と講義	21	文献報告
6	報告と討論	22	個人（グループ）報告の説明と意見交換
7	映像鑑賞と講義	23	個人（グループ）報告
8	報告と討論	24	個人（グループ）報告
9	映像鑑賞と講義	25	個人（グループ）報告
10	報告と討論	26	個人（グループ）報告
11	映像鑑賞	27	個人（グループ）報告
12	報告と討論	28	個人（グループ）報告
13	文献報告	29	個人（グループ）報告
14	文献報告	30	相互評価
15	文献報告	31	後期のふりかえり
16	前期のふりかえり		

【履修上の注意事項】

選定した映像・文献資料をもとに担当を決めて毎回報告してもらいますが、映像については全員で鑑賞したうえで担当の報告を行い、またテーマによっては必要に応じてその背景について講義を行います。文献ともども、担当の報告を受けて、全員で討論をするという形式をとりますが、できるだけ卒論のテーマを意識した取り組みを行ってください。

【評価方法】

出席を重視。討論への参加、レジュメ作成、ゼミ論の発表・内容等、総合的に評価する。

【テキスト】

映像はNHKのETV特集を中心に、また文献は受講生と相談のうえ選定する。

【参考文献】

随時紹介する。

沖縄現代史 I

担当教員 宮城 晴美

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

アジア太平洋戦争における日本の敗戦によって、沖縄は日本から分断されて米軍占領下におかれた。基地建設のための土地の接収、相次ぐ米兵による犯罪……。沖縄の人たちに人権はなかった。27年後、施政権が日本に返還されたものの、沖縄から米軍基地は減ることはなく、米軍人・軍属による犯罪はほとんどが不起訴である。本講義では、戦後の沖縄の社会・政治・経済等について歴史的に検証することで、戦後日本における沖縄の位置づけを学ぶ手立てとしたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	沖縄現代史への導入（映像「遅すぎた聖断」からみる沖縄）
3	廃墟からの出発～収容所生活と米軍による統治機構
4	戦後教育のはじまり
5	琉球政府の発足とサンフランシスコ講和条約
6	銃剣とブルドーザー～米軍基地への抵抗・「島ぐるみ」土地闘争
7	高等弁務官制度
8	復帰運動のうねり
9	復帰前後の沖縄（通貨交換の変遷、人々の動向）
10	沖縄返還交渉の密約
11	沖縄の基地問題と日米地位協定
12	映像を通して沖縄の“いま”を考える
13	〃
14	歴史修正主義のうごめき
15	戦後50年をふりかえる
16	テスト

【履修上の注意事項】

できるだけパワーポイントやビデオなど、適宜ビジュアルな資料を使って授業を進めるようにするが、話の途中でわからない（わかりにくい）ことがあれば、積極的に質問して内容を理解してほしい。

【評価方法】

出席を重視する。授業終了後のリアクションペーパーの提出、レポート、テストなどによって評価する。

【テキスト】

毎回、レジュメ、資料を配付する。

【参考文献】

- ・那覇市歴史博物館編『戦後をたどる 「アメリカ世」から「ヤマトの世」へ』琉球新報社、2007
- ・金城正篤・上原兼善・秋山勝・仲地哲夫・大城将保『沖縄県の百年』山川出版社、2005

沖縄現代史Ⅱ

担当教員 宮城 晴美

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

戦前の家父長制下で、女性たちは男性への隷従を強いられてきたが、アジア太平洋戦争における日本の敗戦によって新しい憲法が施行され、女性の位置づけは大きく異なった。しかしながら沖縄の女性たちは、夫や息子の戦死で経済的基盤を失ったうえ、米軍占領下の土地の取り上げや相次ぐ米兵による性犯罪等で、厳しい環境での生活を余儀なくされた。本講義では、米軍占領下から日本復帰を経て、今日までの沖縄の女性たちが築き上げてきた戦後の沖縄を、ジェンダーの視点でとらえていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	現代女性史ダイジェスト～戦後50年・沖縄女性のあゆみ
3	廃墟のなかで
4	日本国憲法と女性の政治参加～世界的潮流のなかで
5	婦人会の結成と男女平等意識の高まり
6	米軍基地と買売春
7	公衆衛生看護婦の誕生
8	土地闘争と女性たち
9	米軍統治下の女たちの文化活動
10	米兵による性犯罪とジェンダー
11	久高島のイザイホー
12	沖縄のフェミニズム運動～起ち上がった女たち
13	北京会議・世界の女性は何と闘っているか（映像）
14	バックラッシュ時代～女性をとりまく記憶の抗争
15	改めて「男女同権」を考える
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

できるだけパワーポイントやビデオなど、適宜ビジュアルな資料を使って授業を進めるようにするが、話の途中でもわからない（わかりにくい）ことがあれば、積極的に質問して内容を理解してほしい。

【評価方法】

出席を重視する。授業終了後のリアクションペーパーの提出、レポート、テストなどによって評価する。

【テキスト】

毎回、レジュメ、資料を配付する。

【参考文献】

- ・那覇市総務部女性室編『なは・女のあしあと 那覇女性史（戦後編）』琉球新報社、2001
- ・その他随時紹介する

沖縄社会入門

担当教員 鳥山 淳(8回)、河村雅美(7回)

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義は、今日の沖縄社会が直面している課題のいくつかに向け、その背景にある構造的な問題について考察することをテーマとする。そのための3つの切り口として、環境と基地に関する問い、戦争の傷跡にかかわる問い、貧困に関する問いを設定し、それぞれについて具体的な考察を行う。それらを通して、沖縄社会について思考するために必要とされる基本的な問題意識を身に付けていくようにしたい。

【授業の展開計画】

- 1週目 前半のテーマの概要
- 2週目 環境と基地① やんばる高江の事例
- 3週目 環境と基地② 金武湾CTS闘争
- 4週目 環境と基地③ 新石垣空港
- 5週目 環境と基地④ 普天間基地
- 6週目 環境と基地⑤ 辺野古の新基地建設
- 7週目 環境と基地⑥ 過去と未来を結ぶ基地汚染
- 8週目 後半のテーマの概要
- 9週目 傷跡に向き合う① 戦争体験を語ること・きくこと
- 10週目 傷跡に向き合う② 戦場における軍隊と住民
- 11週目 傷跡に向き合う③ 戦場の経験と戦後の経験
- 12週目 傷跡に向き合う④ 戦後補償のなかの差別
- 13週目 貧困を考える① 流動化する労働
- 14週目 貧困を考える② 性別分業と格差
- 15週目 貧困を考える③ 原発と被ばく労働
- 16週目 学期末試験

【履修上の注意事項】

社会文化学科での学びにとって必須とされる基礎的な視点を身につけようという意識をしっかりと持って受講すること。

【評価方法】

次の方法で評価を行う。
参加姿勢30%、レポート30%、期末テスト40%
詳細については授業内で伝達する。

【テキスト】

特定のテキストは指定しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

『那覇女性史(戦後編) なは・女のあしあと』(2001年、琉球新報社)
宮本憲一・川瀬光義『沖縄論—平和・環境・自治の島へ—』(2010年、岩波書店)

沖縄前近代史 I

担当教員 田名 真之

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

近世琉球の社会と構造について考察する。首里王府の行政文書（翻刻史料）を用いて、往時の社会について見ていく。翻刻された候文がある程度読めて、理解できるよう指導する。史料は導入で「書状」「法令」などを読み、後に『琉球王国評定所文書』から異国船来航関係の文書を講読する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論
2	史料概要
3	史料講読一講義
4	史料講読 //
5	史料講読 //
6	史料講読 //
7	史料講読 //
8	史料講読 //
9	史料講読一個々に割り当てての読み、内容報告
10	史料講読 //
11	史料講読 // 小テスト
12	史料講読 //
13	史料講読 // 小テスト
14	史料講読 //
15	史料講読 //
16	テスト

【履修上の注意事項】

1. 古文書（候-そうろう-文）を中心に漢文史料（主に読み下し文）にも触れる。
2. 遅刻しないこと。質問は積極的に。
3. 前、後期通して履修することが望ましい。

【評価方法】

学期末の試験と適宜の小テスト、出席状況、受講態度で評価

【テキスト】

関連資料のプリントを配布

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する

沖縄前近代史Ⅱ

担当教員 田名 真之

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

近世琉球王国の社会とその構造について考察する。具体的には導入で古文書2, 3点を読んで後、前期に引き続き、『琉球王国評定所文書』を読む。王府関連の古文書(候文、原文書) 翻刻文書を読むことを通して往時の社会と人々の生活を考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論
2	講読史料の概要
3	史料講読 — 講 義
4	史料講読 //
5	史料講読 //
6	史料講読 //
7	史料講読 //
8	史料講読 一個々に割り当てて、読みと内容報告
9	史料講読 //
10	史料講読 // 小テスト
11	史料講読 //
12	史料講読 // 小テスト
13	史料講読 //
14	史料講読 // 小テスト
15	史料講読 //
16	テスト

【履修上の注意事項】

1. 古文書(そうろう文—主に釈文)を中心に漢文史料(主に読み下し文)にも触れる。
2. 遅刻はしないこと。質問は積極的に。
3. 前、後期通して履修することが望ましい。

【評価方法】

学期末試験と適宜の小テストの結果及び出席、受講態度で総合的に評価する

【テキスト】

関連資料のプリントを配布する

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する

沖縄文化入門

担当教員 稲福 みき子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄文化論特講 I

担当教員 赤嶺 政信

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、沖縄文化に関する民俗学的テーマについてとりあげる。沖縄の生活文化（衣食住、人生儀礼、年中行事など）には、どのような意味があるのか、また、どのような変遷過程を経て今日のような状況にあるのかについて、受講生が理解を深めることを目指す。映像資料も積極的に活用したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス
2	村の秩序と掟：不倫女性の制裁事件を中心に
3	久高島：「女が男を守る島」
4	久高島巡検
5	家と門中
6	糸満の門中：「墓を同じくする人々」
7	沖縄の祭祀と女性：ウナイ神・妻と姉妹・女性神官制度
8	女性の帰属・母系制・アミ族
9	野のカウンセラーとしてのユタ・「ユタ科定」
10	沖縄の民家と世界観
11	建築儀礼と自然観・八重山諸島の建築儀礼
12	柳田国男の民俗学と沖縄
13	国家体制と民俗－久高島のイザイホウ再考－
14	綱引きの民俗
15	盆に来る霊・古琉球の盆行事をめぐって
16	まとめ

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況及びテスト（又は課題レポート）により評価する。

【テキスト】

赤嶺政信『シマの見る夢－おきなわ民俗学散歩』ポーターインク

【参考文献】

沖縄文化論特講Ⅱ

担当教員 津波 高志

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

家族社会学 I

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」とは何かを考え、どのようにして現在の家族が構築されたのかを考える。「家族なるもの」と「家族であること」について考察していく。

【授業の展開計画】

01. ガイダンス、家族とは何か
02. 定常型社会と現代家族
03. 贈与交換と家族
04. 〈子供〉の誕生
05. 母性という神話
06. 恋愛・結婚・性愛
07. 日本における近代家族の生成
08. 戦後の日本の社会変動と家族
09. 沖縄における近代家族の生成
10. 戦後の沖縄の社会変動と家族
11. 守姉
12. 男らしさのボックスと経済ピラミッド
13. 家族システムとダブルバインド
14. 家族とアディクション
15. コミュニティと家族
16. テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが重要です。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

家族社会学Ⅱ

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」を社会的に読み解く力をつける。

【授業の展開計画】

01. ガイダンス、家族を考える視点
02. 家族の構造
03. 贈与交換と家族
04. コミュニティと家族
05. ジェンダーと家族
06. ダブルバインドと家族
07. 生と死
08. 家族とアディクション
09. メディアから家族を読み解く (1)
10. メディアから家族を読み解く (2)
11. メディアから家族を読み解く (3)
12. メディアから家族を読み解く (4)
13. 家族と向き合う (1)
14. 家族と向き合う (2)
15. これからの家族
16. テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが力になります。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

環境経済学 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。しかし、環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境保全は効率と公正との緊張関係にあるのである。このような問題意識に基づいて、環境経済学の理論のみならず、身近な沖縄の環境問題を経済学の観点より分かりやすく解説する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境と経済の話1
- 2週目：環境と経済の話2
- 3週目：沖縄経済と地域発展
- 4週目：環境破壊の経済的メカニズム
- 5週目：市場と外部経済
- 6週目：環境の経済価値
- 7週目：環境の価値評価の手段
- 8週目：開発と社会的共通資本1
- 9週目：開発と社会的共通資本2
- 10週目：環境政策の手段
- 11週目：沖縄経済発展と観光財
- 12週目：沖縄経済の特徴
- 13週目：沖縄経済のディレンマ
- 14週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発
- 15週目：赤土汚染による生態系破壊
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

環境経済学Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。そして、自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察し、さらに真の豊かさから見る経済発展の新たなパラダイムを提示する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境はいくらか
- 2週目：CVM(仮想市場評価法)
- 3週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発の功罪
- 4週目：赤土汚染による生態系及び環境の損害評価
- 5週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状
- 6週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価
- 7週目：環境と沖縄の観光経済
- 8週目：竹富島とピノキオ観光
- 9週目：成長するアイルランド観光
- 10週目：アイルランド観光経済と沖縄観光
- 11週目：沖縄経済と済州経済
- 12週目：沖縄と済州の観光産業
- 13週目：内発的発展からみる沖縄経済の発展可能性
- 14週目：真の豊かさとテーゲー経済学
- 15週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

環境思想論

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

京都議定書の約束期間も2012年で終わり、温暖化防止を今後どのように進めるかが大きな課題となってきました。しかし、日本政府も世界の主要な各国も、根本的な方針をいまだ打ち出せないでいます。しかし、地球環境や資源を守ることは、人類の存続を守ることです。いや、環境にいいことは、自分の健康にもいいことであり、環境保護は自分を守ることでもあります。授業では、自然と共生する社会や生活、行動スタイルを実現するためには、具体的にどうすればよいかを考えて生きたいと思えます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講師自己紹介、「環境問題を考えるとは、どういうことか」
2	成績評価の方法について、環境問題とは何か
3	公害問題と環境問題の違い
4	オゾン層の破壊
5	温暖化防止の取り組み
6	生態系の多様性・森林の消滅
7	自動車社会の問題
8	高度技術の問題
9	ライフ・スタイルの問題
10	ゴミ（廃棄物）の問題
11	食品添加物・農薬の問題
12	リサイクル・循環型社会
13	快適で便利な生活を問い直す
14	身土不二・医食同源
15	受講生の感想・評価とレポート提出
16	

【履修上の注意事項】

私語と居眠りは、教室の外で行なってもらいます。
出席したからには積極的に質問・発言をすること。

【評価方法】

成績は、学期末に提出するレポートで基本的に評価します。途中で課題を出すこともあります。課題提出者には、その内容に応じて、レポート評価に上乘せします。出席点は、考慮しません。

【テキスト】

とくに指定はしません。

【参考文献】

環境法

担当教員 砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境問題は公害から生活環境問題、更に将来世代の持続可能な発展を求める地球規模の問題へ拡大しています。環境法とは、環境の質を社会的に望ましい状態にするための法システムの総称です。つまり、現在および将来の環境の質の状態に影響を与える関係主体の意思決定を社会的望ましい状態の実現に向けたためのアプローチに関する法、および、環境に関する紛争処理に関する法律です。

【授業の展開計画】

本講義では、環境法に係るこれまでの理論的蓄積やアプローチ、判例等を学びながら、環境法に関する諸課題について理解を深め、問題点の抽出、解決方法等について考え、分析できる能力を身に付けることを目的としています。

第1回	講義概要説明
第2～3回	環境法の目的
第4～5回	環境法の原則（1）
第6～7回	環境法の原則（2）
第8～9回	環境法の原則（3）
第10～12回	環境問題の性質に応じた解決のためのアプローチ・手法
第13～14回	環境公害訴訟
第15回	まとめ
第16回	期末試験

授業中に教員がトピックに関する演習課題を提示し、受講生が回答を提出することがある。

【履修上の注意事項】

受講生と相談の上、授業の内容や進行を一部変更することがある。

【評価方法】

出席・演習課題・期末試験により評価します。

【テキスト】

随時資料を配布する。

【参考文献】

① 畠山武道、北村喜宣、大塚直（2007）『環境法の入門』（日本経済新聞出版社）、② 北村喜宣（2009）『現代環境法の諸相』（財団法人 放送大学教育振興会）、③ 交告尚史 他（2012）『環境法入門 第2版』（有斐閣アルマ）、その他 適宜案内する。

外国語資料講読演習A I

担当教員 末吉 重人

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会学専攻の学生を対象とした本講義では、欧米の社会学理論史を簡単に学ぶ。社会学の父コントから主要な社会学者の論点を、現代に至るまで簡単に触れる。学生が訳を発表し、それにコメントする形で授業を進行する。おおいにディスカッションを歓迎する。

【授業の展開計画】

第1回 シラバスの説明と発表順の決定
第2回 末吉がオーギュスト・コントとフランス革命について説明
第3回以降 学生による発表～第15回まで
第16回 試験

【履修上の注意事項】

講義中のどのタイミングでの質問も大いに歓迎する。私語は厳禁。退場もある。

【評価方法】

前期は個人発表の(40点)、期末テスト(40点)を行う。
出席点を20点とし、合計で評価する。

【テキスト】

印刷物を配布し、テキストとする。

【参考文献】

外国語資料講読演習 A I

担当教員 安良城 米子

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

平和、文化そして環境問題に関する文献の基礎的な用語を学びながらリーディングのスキルが身に付けられるようにする。英文を読むという行為が、ただ単に文字を追いながら受動的に情報を受け取るだけではなく、書かれた文章を理解するためには知的枠組みが重要である。その知的枠組みの強化も図りつつ進める。個別またはグループの共同学習を通して平和、文化そして環境問題を習得する楽しみを味わってほしい。そして、英語を読む習慣を身に付けて学習を積み上げていく助けとなるよう興味を持てる内容の教材を提供する。

【授業の展開計画】

<前期・外国語資料講読演習 A I >

前期では英語を楽しんで読むことから始めたい。同時に基礎的語彙、語句、慣用句などしっかりと見に付けることを目指す。

週	授 業 の 内 容
1	
2	Class
3	Class
4	Class
5	Education
6	Education
7	Education
8	Education
9	Education
10	Feminism
11	Feminism
12	Feminism
13	Health and Age
14	Health and Age
15	Health and Age
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語、携帯電話の使用など、周囲に迷惑のかかるような行為は厳禁。
英語の辞書を持参すること。

【評価方法】

出席状況、授業姿勢、小テスト、そして期末試験を総合して評価する。
出席・授業姿勢 (20%)、小テスト (30%)、期末試験 (50%)

【テキスト】

『Life and Society in Modern Britain』（現代イギリスの暮らしと文化）英宝社 を使用する。

【参考文献】

その都度、授業で紹介する。

外国語資料講読演習AⅡ

担当教員 安良城 米子

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

平和、文化そして環境問題に関する文献の基礎的な用語を学びながらリーディングのスキルが身に付けられるようにする。英文を読むという行為が、ただ単に文字を追いながら受動的に情報を受け取るだけではなく、書かれた文章を理解するためには知的枠組みが重要である。その知的枠組みの強化も図りつつ進める。個別またはグループの共同学習を通して平和、文化そして環境問題を習得する楽しみを味わってほしい。そして、英語を読む習慣を身に付けて学習を積み上げていく助けとなるよう興味の手持てる内容の教材を提供する。

【授業の展開計画】

＜後期・外国語資料講読演習AⅡ＞

前期の基礎的文献の講読を継続。専門用語を理解・整理すると同時に英語を読む習慣を保ち学習を積み上げていく助けとなるよう適時に小テストを実施する。

週	授 業 の 内 容
1	Religion
2	Religion
3	Religion
4	Love & Marriage
5	Love & Marriage
6	Love & Marriage
7	Enviroment
8	Enviroment
9	Enviroment
10	Immigration & Race
11	Immigration & Race
12	Immigration & Race
13	Ireland
14	Ireland
15	Ireland
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語、携帯電話の使用など、周囲に迷惑のかかるような行為は厳禁。
英語の辞書を持参すること。

【評価方法】

出席状況、授業姿勢、小テスト、そして期末試験を総合して評価する。
出席・授業姿勢（20%）、小テスト（30%）、期末試験（50%）

【テキスト】

『ECO-FRIENDLY JAPAN』（エコ・フレンドリー・ジャパン）英宝社 を使用する。

【参考文献】

その都度、授業で紹介する。

外国語資料講読演習AⅡ

担当教員 末吉 重人

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

後期は、前期に学んだ社会学理論を前提として社会問題を学ぶ。アメリカの学部生がよく使うテキストを使用するが、日本とは異なる視点に注目し、米国の文化についても触れることを目的とする。このテキストは家庭問題から政府の問題まで数多くの社会問題を扱っている。それを複数の学生で担当して発表し、コメントを混ぜながら授業を進める。

【授業の展開計画】

第1回 分担ページの決定
第2回 四つの社会学的視点の説明
第3回以降 担当の発表とコメント～第15回まで
第16回 テストとペーパー提出

【履修上の注意事項】

講義中のどのタイミングでの質問も大いに歓迎する。私語は厳禁。退場もある。

【評価方法】

後期はグループ発表（40点）、期末ペーパーor試験（小論40点）を課す。出席点を20点とし、合計で評価する。

【テキスト】

James W Coleman & Donald Clessey, 'SOCIAL PROBLEMS' (New York, Harper & Roe, Publications, 1984) - 図書館に指定文献として置いておくので、それを各自でコピーして使用すること。

【参考文献】

外国語資料講読演習 B I

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

外国語資料講読演習B I

担当教員 藤波 潔

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、社会文化学科文化コース3年次対象の必修科目であり、とくに歴史学・考古学を専攻する学生を対象としている。卒業論文作成にあたり、外国語の論文や資料を利用することは今や当然のことだが、外国語専門資料を正確に読解する能力が不足している学生が多いのが現実である。そこで、本講義では、歴史学・考古学の方法論に関わる英語の専門文献の精読をおこない、受講生が英和辞典を用いることで、正確な英文読解ができるようにさせることを目的としている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・小テスト
2	テキストの輪読①
3	テキストの輪読②
4	テキストの輪読③
5	テキストの輪読④
6	テキストの輪読⑤
7	テキストの輪読⑥
8	中間試験
9	中間試験の返却、解説／テキストの輪読⑦
10	テキストの輪読⑧
11	テキストの輪読⑨
12	テキストの輪読⑩
13	テキストの輪読⑪
14	テキストの輪読⑫
15	テキストの輪読⑬
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 外国語講読のための演習であり、受講生を不規則に指名するので、予習は不可欠である。
- ② 半期間に数回、レポート代わりのワークシートを実施する。
- ③ 中辞典以上の英和辞書（同機能の電子辞書でも可）を必ず持参すること。
- ④ 文法に自信のない者は、高校レベルの文法書を用意し、復習しておくこと。
- ⑤ 出席は毎回必ずとる。

【評価方法】

出席状況（15%）、ワークシート（15%）、中間試験（35%）および学期末試験（35%）による総合評価とする。

【テキスト】

開講時に指示するが、テキストは必要な部分を印刷して配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

外国語資料講読演習 B II

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

外国語資料講読演習BⅡ

担当教員 藤波 潔

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、社会文化学科文化コース3年次対象の必修科目であり、とくに歴史学・考古学を専攻する学生を対象としている。卒業論文作成にあたり、外国語の論文や資料を利用することは今や当然のことだが、外国語専門資料を正確に読解する能力が不足している学生が多いのが現実である。そこで、本講義では、歴史学・考古学の方法論に関わる英語の専門文献の精読をおこない、受講生が英和辞典を用いることで、正確な英文読解ができる能力を、前期以上に向上させることを目的としている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、テキストの輪読①
2	テキストの輪読②
3	テキストの輪読③
4	テキストの輪読④
5	テキストの輪読⑤
6	テキストの輪読⑥
7	テキストの輪読⑦
8	中間試験
9	中間試験の返却／テキストの輪読⑧
10	テキストの輪読⑨
11	テキストの輪読⑩
12	テキストの輪読⑪
13	テキストの輪読⑫
14	テキストの輪読⑬
15	テキストの輪読⑭
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 外国語講読のための演習であり、受講生を不規則に指名するので、予習は不可欠である。
- ② 半期の中に数回、レポート代わりにワークシートを実施する。
- ③ 中辞典以上の英和辞書（同機能の電子辞書も可）を必ず持参すること。
- ④ 文法に自信のない者は、高校レベルの文法書を用意し、復習しておくこと。
- ⑤ 出席は毎回必ずとる。

【評価方法】

出席状況（15%）、ワークシート（15%）、中間試験（35%）および学期末試験（35%）による総合評価とする。

【テキスト】

開講時に指示するが、前期とは異なるテキストを使用し、必要な部分を印刷して配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

外国平和研究事情

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習

担当教員 田名 真之

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

沖縄戦後史の基本的な流れを学ぶとともに、文献や史料に関する知識を養い、史料の読み方、史料の収集方法について学ぶ。併せてグループでテーマを設定して、史料を収集し、分析、整理して報告書にまとめるまでの一連の過程を体験させる。

【授業の展開計画】

通年の演習で科目で、前期は琉球・沖縄史と戦後史についてその概要を学び、その上で、戦後史に絞って論文や史料の講読を行う。オリジナルの史料に触れる実習を夏季実習として行うため、そうした史料保存機関一大学図書館をはじめ、その他県立図書館や、県立公文書館を訪問する。実習は班単位で一つのテーマを扱うが、全体テーマの決定後、各班のテーマを決定し、調査計画を立て、夏季実習に備える。夏季実習後の後期は調査報告書作りがメインで、そのために補足調査や第1次、第2次の中間報告を行い学年末の報告書編集につなげる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	琉球・沖縄史と戦後史の概要	17	夏季実習の第1次報告(各班)
2	戦後史の基本的文献および史料	18	追加調査・関係資料の収集
3	大学図書館の郷土資料室(閲覧)	19	同 上
4	基本文献(論文)講読	20	夏季実習報告書の概要について調整
5	同 上	21	同上報告書案の作成
6	同 上	22	追加調査・関係資料の収集
7	同 上	23	同 上
8	史料保存機関一訪問	24	同 上
9	基本文献(論文)講読	25	報告書の中間報告(第2次報告)一合評
10	同 上	26	同 上 一合評
11	同 上	27	報告書案の修正、整理、補足調査など
12	夏季実習の概要と班編制	28	同 上
13	夏季実習のテーマ検討(各班ごと)	29	報告書編集の調整
14	夏季実習調査計画(各班)	30	報告書編集の調整
15	同 上	31	報告書の編集
16	同 上		

【履修上の注意事項】

調査、報告など班(グループ)単位となるので、グループで学習するなどチームワークを養うこと。

【評価方法】

出席、調査への取り組み、報告書の内容等で総合的に評価する

【テキスト】

プリントを配布。

【参考文献】

参考文献は適宜紹介する。

基礎演習

担当教員 鳥山 淳

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義の全体のテーマは、沖縄社会の歩みと現状に向き合いながら、その現実を変革する可能性について考えることである。夏期に行う実習に向けて調査の目的や手法を共有し、実習後には調査の成果を活かして報告書を作成する。その過程で、具体的な地域や問題を選んで調査計画を立て、必要とされる知識や手法を身につける。実習後は、その内容を報告書にまとめる作業に取り組み、整理・分析・表現の手法を身につける。

【授業の展開計画】

前期

基地問題の基本的な経緯の把握

調査する地域を知るための事前学習（資料の収集と要約）

聞き取り調査の手法および心がけの学習

調査の依頼と事前調整

後期

調査記録の整理

報告書の基本構想の作成

報告書の作成と印刷

【履修上の注意事項】

夏期の実習とともに、1年を通して積極的に取り組むこと。

【評価方法】

出席と取り組み姿勢によって評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

基礎演習

担当教員 内海（宮城）恵美子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本演習では、社会調査の基本概念を学習した上で、質的調査（フィールドワーク、インタビュー法、ビジュアル分析など）と量的調査（調査票調査）を相互補完的に組み合わせ、調査企画から報告書作成に至る社会調査の一連のプロセスを実践的に学んでいく。本演習の主要テーマは、「沖縄の社会問題とその現代的課題：である。少子高齢化とグローバル化が進行する中で、複雑化・多様化する沖縄の社会問題とその現代的課題を、現地調査によって多角的に理解していく。その際、女性・高齢者・移民・子ども・障がい者など社会的マイノリティの視座に立つことで、人々が生きる社会関係と現代沖縄社会が抱える構造的問題を多面的・複眼的に把握する。

【授業の展開計画】

調査の実施に先立ち、社会問題を分析する社会学の諸理論と分析の視座、沖縄の社会問題に関する先行研究を整理し基礎的知識を身につける。その後、一つの共通テーマ（沖縄戦・米軍基地、性・生殖、家族、介護・育児、労働、医療・福祉、文化、ジェンダー、エスニシティ、アイデンティティ、その他の社会問題）を決める。共通テーマのもと複数のサブテーマを設定し、グループごとに調査の企画・設計、仮設・調査項目の設定、インタビューガイド・調査票の作成、対象者・地域の選定、実査、収集データの集計・分析、報告書の作成を行う。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	夏期集中講座＝現地調査（FW）の実施
2	共通テーマ、サブテーマとグループ決定	18	中間報告：質的調査をふまえて
3	社会調査概論：社会調査とは何か？	19	同上
4	グループによる事前調査（PFW）実施	20	同上
5	同上	21	量的調査のデータ集計と分析
6	グループ事前調査（PFW）と仮説の発表	22	中間報告：量的調査のデータ集計
7	同上	23	同上
8	同上	24	同上
9	質的調査の方法と実践	25	図表作成の方法
10	量的調査の方法と実践	26	報告書作成とプレゼンテーションの方法
11	フィールドワークの実践①仮説の構築	27	最終報告①
12	同上②インタビューガイドの作成	28	最終報告②
13	同上	29	最終報告③
14	同上③調査の企画・設計	30	調査報告書の作成
15	同上	31	調査報告書の作成
16	調査対象者と地域の選定		

【履修上の注意事項】

★集中講座「実習」（内海担当）との連動科目である★

- ①調査地と調査項目は学生の関心を優先して決定する。
- ②学生は、調査地域および調査対象者に不快感を与えないよう、調査倫理に則った節度のある行動を要する。
- ③各自、録音機器やデジタルカメラ、ノート（フィールドノート用）など調査に必要な道具・機材を用意することが望ましい。ただし、ICレコーダーは各グループに1台貸し出す。

【評価方法】

出席（討論への参加姿勢を含む）、調査実習の取り組み、調査結果の発表、調査報告書の内容で総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介ら編、2005、『社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房。
 佐藤郁也、2006、『フィールドワーク（増訂版）——書を持って街へ出よう』新曜社。
 R.M.エマーソンほか、1998、『方法としてのフィールドノート——現地取材から物語作成まで』新曜社。

【参考文献】

岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎』、佐藤郁哉『実践フィールドワーク入門』、桜井厚ほか編『ライフストーリー・インタビュー』、戈木クレイグ・ヒル滋子『グラウンデッド・セオリー・アプローチ』など、その他講義の中で適宜提示する。

基礎演習

担当教員 上原 静

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

遺跡を実際に発掘することによって、調査の方法を学ぶ。そして、一度発掘してしまうと、遺跡は再び元に戻らない。このことを十分認識し、発掘に際しては周到な計画と細心の注意が必要なことを理解してもらう。そうすることによって、報告書作成の意義を認識してもらう。

【授業の展開計画】

考古学の性格、遺跡と遺物、土器、石器、木器、貝器等の遺物について学習、発掘調査における記録技術、発掘遺物の洗浄と土器型式の発表（レポート）、遺物の実測図作成等を行う。

【履修上の注意事項】

- 1、夏期集中講義（発掘実習）に必ず参加する。
- 2、実習は技術の習得に力点を置くので、講義時間以外にも遺物の整理に従事する。

【評価方法】

レポートを数回、随時に課す。
遅刻・欠席は減点の対象とする。

【テキスト】

藤本強『考古学を考える』雄山閣出版 1996・江上波夫監修『考古学ゼミナール』山川出版 1976・文化財保護委員会『埋蔵文化財発掘調査の手引き』国土地理協会 1967

【参考文献】

文化財保護委員会『文化財保護必携』第一法規 1968・甘粕 健編『地方史と考古学』柏書房 1977
甘粕 健編『考古資料の見方（遺跡編）』柏書房1977・甘粕 健編『考古資料の見方（遺物編）』柏書房1997

基礎演習

担当教員 宮城 邦治

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境学を学ぶ学生のための基礎演習で、沖縄県の島嶼的特性を環境的視点で捉えていくものである。沖縄の地域は地理的な「島」と社会的な「シマ」という視点で捉えると実に多様な社会が浮かび上がってくる。私たちが知りうる「島」と「シマ」の歴史、文化、社会は実に微小であるが、鳥瞰する視点と等身大の思考で地域を見据えるならば、私たちの認識を超える「島」と「シマ」の現況が浮かび上がってくると考える。そんな琉球（沖縄）への理解を深化させていきたい。

【授業の展開計画】

前期) 「島」と「シマ」に関する自然、社会、文化などの図書、資料などの読み合わせを中心に、今後の調査テーマを考えさせる。

学生の能力と関心に合わせて試行錯誤をしながら調査テーマを選び出していく。
各週ごとに2～3名程度に資料などの報告をさせ、テーマは絞り込むようにする。
その間、地域巡検（実習）を数回実施する。

後期) 前期で絞り込んだ調査地域とテーマに関する資料などの読み合わせを行う。
各週ごとに2～3名程度に資料などの報告をさせる。
その間、決定された調査地域とテーマに関する巡検を数回実施する。

【履修上の注意事項】

環境学を専攻する学生は自らが立脚する状況を、環境的視点すなわち「鳥瞰する視点」と「等身大での思考」を心掛けることが重要である。注意深く興味をもって「島」であり「シマ」でもある「地域」を解きほぐしていく心意気をもって欲しい。なお、当然ながら「実習」にも積極的に参加することが肝要である。

【評価方法】

実習への参加、レポートの提出などを勘案して評価する。

【テキスト】

調査地、テーマなどが決定した際に関連するテキスト、資料などを告示または配布する。

【参考文献】

調査地、テーマなどが決定した際に告示また配布する。

基礎演習

担当教員 稲福 みき子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

民俗調査についての基本的な知識と方法論、調査資料の整理分析、調査報告書の編集・作成について学習する。とくに、民俗学の伝統的なアプローチである「参与観察」の体験学習を通じて、民俗文化についての理解を深める。民俗実習を経て、報告書『民俗研究43号』を発行する。

【授業の展開計画】

前期

- 1 科目についてのオリエンテーション
- 2 トレーニング・プログラム班の編成
- 3 村落巡検
- 4 斎場御嶽について（第1班）現地発表
- 5 門中墓について（第2班）現地発表
- 6 トレーニング・プログラムの総括
- 7 実習地の決定
- 8 実習テーマの設定と事前学習
- 9～13 調査レジュメの発表
- 13～15 調査実施計画確定

後期

- 1 調査の総括と感想
- 2 調査報告の記述要項
- 3 調査写真・映像のチェック
- 4 調査資料の整理
- 5 調査報告の作成と発表（班別）
- 6 //
- 7 //
- 8 //
- 9～13 報告書の修正
- 13～15 調査報告書の編集・印刷・製本

【履修上の注意事項】

民俗学実習と同時に履修すること。グループ学習を積極的に行うこと。

【評価方法】

- ①出席を重視する。
- ②レジュメのまとめ、発表力、調査力、報告書の内容、ゼミへの貢献度等、総合的に評価する。

【テキスト】

講義の中で適宜紹介する。

【参考文献】

基礎演習

担当教員 石垣 直

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習の目的は、社会・文化人類学の根幹をなす調査・研究手法である「参与観察」を通じて、対象社会・テーマ・トピックに対する理解を深め、その調査・研究成果を整理・分析し、報告書・論文としてまとめる作法を学ぶことにある。前期にはレジュメ作成の技術、調査テーマや参与観察の手法などについて学ぶ。後期には夏休み中にゼミ全体で実施する現地調査の成果を班毎に発表して質疑応答を行い、最終的には調査成果報告書を作成する。調査テーマに関してはゼミでの議論を通じて設定するが、基本的には沖縄および周辺各地の衣食住・生業・年中行事・人生儀礼などを対象とする予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、自己紹介	17	調査成果発表（1）
2	レジュメ作成方法・発表方法	18	調査成果発表（2）
3	テーマ・文献研究、レポート・論文作法	19	調査成果発表（3）
4	輪読・文献研究（1）	20	調査成果発表（4）
5	輪読・文献研究（2）	21	輪読・文献研究（1）
6	輪読・文献研究（3）	22	輪読・文献研究（2）
7	輪読・文献研究（4）	23	輪読・文献研究（3）
8	輪読・文献研究（5）	24	補足調査質問項目の作成（1）
9	輪読・文献研究（6）	25	補足調査質問項目の作成（2）
10	輪読・文献研究（7）	26	報告書の書きかた（1）
11	輪読・文献研究（8）	27	報告書の書きかた（2）
12	参与観察の目的・意義・手法	28	報告書ドラフトの作成（1）
13	調査計画の策定（1）	29	報告書ドラフトの作成（2）
14	調査計画の策定（2）	30	報告書の編集・発行（1）
15	質問項目の作成（1）	31	報告書の編集・発行（2）
16	質問項目の作成（2）		

【履修上の注意事項】

通常の講義科目とことなり、演習では各ゼミ生のより一層の主體的参加が求められる。文献研究やゼミでの発表・質疑応答を通じて、ゼミ全体としての共通テーマのもとで各ゼミ生の問題意識を深化させてほしい。

【評価方法】

出席・授業への参加姿勢（50%）、調査成果・論文評価（50%）。出席および演習への参加姿勢を重視する。その上で、調査成果や論文の完成度合いに応じて総合的に評価する。

【テキスト】

演習のなかで適宜紹介。

【参考文献】

演習のなかで適宜紹介。

考古学概論

担当教員 江上 幹幸

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

考古学史を学ぶ中で、考古学とは何かを理解する。考古学で扱う資料を通して、先史時代の人々がどのような環境で暮らしていたかを学ぶ。人間行動の産物である物質文化は遺跡や遺物に反映している。先史時代の人々の遺跡を理解することで、これらがどのようにして作られ、活用されたかを学ぶ。その機能を判定するために考古学、民族学、民俗学を援用して行う。

【授業の展開計画】

- 第1回 考古学とは何か。研究史から読み解く
- 第2回 考古学史。プーシェ・ド・ベルテからラボックまで
- 第3回 考古学史。トムゼンからモンテリュウスまで
- 第4回 考古学史。V. G. チャイルドの業績
- 第5回 型式学とは
- 第6回 ニューアーケオロジーとは
- 第7回 年代測定法
- 第8回 ヨーロッパを中心とする時代区分の限界
- 第9回 考古学的時代区分と人類学的時代区分の違い
- 第10回 旧石器時代の石器（オルドワン石器からルヴァロア技法まで）
- 第11回 旧石器時代の遺跡
- 第12回 新石器時代の生業（農耕・牧畜）
- 第13回 新石器時代の遺跡
- 第14回 新石器時代の遺物
- 第15回 まとめ

【履修上の注意事項】

意欲的な授業参加を求む。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

随時授業で指示する。

考古学概論 I

担当教員 江上 幹幸

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

考古学とは何か。考古学で扱う資料を通して、先史時代の人々がどのような環境で暮らしていたかを学ぶ。人間行動の産物である物質文化は遺跡や遺物に反映している。その機能を判定するために考古学、民族学、民俗学を援用して行う。これらをどのようにして利用していくかを学ぶ。

【授業の展開計画】

16回形式：

第1週～3週	考古学とは何か。
第4週～6週	考古学史
第7週～9週	旧石器時代とは
第10週～14週	新石器時代とは
第15週	まとめ
第16週	試験

【履修上の注意事項】

意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

藤本強『考古学を考える』雄山閣 1994・藤本強『ごはんとパン』同成社 2007・松井章『環境考古学への招待』岩波新書 2005

考古学概論Ⅱ

担当教員 江上 幹幸

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

北の北海道から南の南島まで、南北に長い日本列島がもつ様々な気候帯。先史時代の人々はそのような異なった自然環境の中でさまざまな生活を営んでいる。アジアの中で、日本の先史時代がどのような生業を生み出し、アジアの地域と関わって来たかを最新の発掘資料から概説する。

【授業の展開計画】

15回形式：

第1週～	2週	縄文文化の研究史
第3週～	5週	縄文時代の環境と時期区分
第6週～	8週	縄文人の暮らし
第9週～	11週	縄文人の食生活
第12週～	14週	アジアの中の縄文文化
第15週		まとめ
第16週		試験

【履修上の注意事項】

意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

阿部芳郎『縄文の暮らしを掘る』岩波ジュニア新書 2002・松井章『環境考古学への招待』岩波新書 2005・藤本強『ごはんとパン』同成社 2007

国際関係論

担当教員 河村 雅美

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、環境問題というまさに国境を越える問題を中心に、沖縄の例も取り入れながら国際関係を学ぶことを目的とします。国連や国際環境機関のシステム、環境に関する国際条約、NGOや科学者、メディアの役割などを中心に、現在の環境の国際的な運動について理解します。国際社会と国家、地域の関係についても、沖縄からひきつけて考える機会を設けて学んでいきます。基地を抱える沖縄特有の環境問題についても触れていく予定です。琉球・奄美諸島は世界自然遺産の暫定リストとして登録され、沖縄が市民として国際的な環境問題に関わることは今後必要となってきます。そのために必要なスキルとは何かも考えていきたいと思っています。

【授業の展開計画】

国際環境運動の枠組みを学び、その後、沖縄がどのように国際環境運動に関わったかを学ぶことにより、地域と国際社会の関係を学んでいく。随時、時事問題などを学ぶ機会をつくって、講義を進める。最終的には、環境に関する国際関係の枠組みを理解し、市民としての活動スキルとして何が必要かなど、把握することを目標とする。随時、ビデオ・DVDなどの視覚教材を用いて理解を助ける予定。条約の原文の一次資料を読んだり、ワークショップを設ける予定である。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	イントロダクション：環境の国際関係・国際運動を考えるために
3	1. 環境問題の国際化
4	2. 国連と環境問題（「地球サミット」、リオ+20～セヴァン・スズキのスピーチから今）
5	3. 国連生物多様性条約を知る (1) 自然保護を超えた条約
6	(2) 「南北問題」
7	(3) 利益配分（生物資源の問題）
8	4. 沖縄の環境問題と国際的な取り組み 1) 新石垣空港建設問題での国際社会への訴え
9	2) 辺野古新基地建設問題とジュゴン保護
10	3) //
11	4) 米国での法的闘い「ジュゴン訴訟」
12	5) 生物多様性条約と沖縄
13	6) 基地汚染の問題など
14	Workshop：市民活動のスキル
15	予備日
16	試験

【履修上の注意事項】

オリエンテーションで配布するものが最終的なシラバスや授業についての情報になるので履修予定者は出席すること。

【評価方法】

授業への参加姿勢（40点）、期末試験（60点）で評価する。

【テキスト】

特にメインで使う教科書はなし。レジュメを用いて授業をすすめる。

【参考文献】

随時、紹介する。

古文書講読 I

担当教員 山田 浩世

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

過去の社会を知る方法の一つに、膨大に残された史料＝古文書を読み解くという方法があります。本講義では、琉球で使用されていくずし字（候文）の史料に慣れ、それを読み解くための基礎的な読解力の養成を目指します。くずし字を最初から読める人はいません。講義参加者全員でゆっくりとくずし字の世界に慣れていきましょう。全体として初回から数回は、すでに翻刻されている史料（活字史料）を読み、その後、未翻刻史料などの読解に挑戦していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	史料読解法の講義①（古文書の概要と読み方）一次回以降の担当部分割り当て
3	翻刻済み史料の講読①
4	翻刻済み史料の講読②
5	翻刻済み史料の講読③
6	翻刻済み史料の講読④
7	史料読解法の講義②（くずし字の概要と読解法）一次回以降の担当部分割り当て
8	未翻刻史料の講読①
9	未翻刻史料の講読②
10	未翻刻史料の講読③
11	未翻刻史料の講読④
12	未翻刻史料の講読⑤
13	未翻刻史料の講読⑥
14	未翻刻史料の講読⑦
15	未翻刻史料の講読⑧
16	テスト

【履修上の注意事項】

前半は、翻刻済みの活字史料を全員で講読し、後半は未翻刻史料を講読します。積極的な授業への参加を期待します。継続が重要となるので、遅刻しないこと、また前・後期を通して履修することを望みます。

【評価方法】

- ・最終的な試験（テスト）に授業の出欠点、授業態度を加味し、総合的に判断します。
- ・出欠確認は、適宜行います。
- ・試験は、史料・くずし字を読解することとします。

【テキスト】

- ・授業時に適宜配布します。

【参考文献】

くずし字の読解用辞書として児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1993）または林英夫・若尾俊平編『増訂近世古文書読解辞典』（柏書房、1972）。その他、必要な文献は、授業の中で適宜紹介します。

古文書講読Ⅱ

担当教員 山田 浩世

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、前期に引き続き琉球で使用されていくずし字（候文）の史料に慣れ、それを読み解くための基礎的な読解力の養成を目指します。初回から数回は、受講者の状況をみながら翻刻されている史料（活字史料）を読み、その後、未翻刻史料などの読解に挑戦していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	史料読解法の講義①（古文書の概要と読み方）一次回以降の担当部分割り当て
3	翻刻済み史料の講読①
4	翻刻済み史料の講読②
5	翻刻済み史料の講読③
6	史料読解法の講義②（くずし字の概要と読解法）一次回以降の担当部分割り当て
7	未翻刻史料の講読①
8	未翻刻史料の講読②
9	未翻刻史料の講読③
10	未翻刻史料の講読④
11	未翻刻史料の講読⑤
12	未翻刻史料の講読⑥
13	未翻刻史料の講読⑦
14	未翻刻史料の講読⑧
15	未翻刻史料の講読⑧
16	テスト

【履修上の注意事項】

前半は、翻刻済みの史料を全員で講読し、後半は未翻刻史料を講読します。積極的な授業への参加を期待します。継続が重要となるので、遅刻しないこと、また前・後期を通して履修することを望みます。前半については、講義の参加者に応じて変更することがあります。

【評価方法】

- ・最終的な試験（テスト）に授業の出欠点、授業態度を加味し、総合的に判断します。
- ・出欠確認は、適宜行います。
- ・試験は、史料・くずし字を読解することとします。

【テキスト】

- ・授業時に適宜配布します。

【参考文献】

くずし字の読解用辞書として児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1993）または林英夫・若尾俊平編『増訂近世古文書読解辞典』（柏書房、1972）。その他、必要な文献は、授業の中で適宜紹介します。

社会学概論

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会学理論 I

担当教員 秋山 道宏

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

わたしたちは、「当たり前」（常識）という色眼鏡を通して物事を見つめ、日々の生活を送っている。しかし、現実の物事はみかけどおりではなく、聞こえのいい常識の背後でお互いを排除し、時に暴力をふるうことで社会が成りたっているとしたらどうだろう。この講義では、「趣味」、「アイデンティティ」や「愛」などの身近な事柄を入口とし、社会的な認識の枠組みを修得することで、この色眼鏡を批判的に捉え直す。これを通して、わたしたちが織りなす社会への理解を深め、社会との関わり方を考える一助としてほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	わたし（個人）を問う（1）「好き嫌い」を社会的に捉える（趣味、文化）
3	わたし（個人）を問う（2）「われわれ」とは？①（記憶、アイデンティティ）
4	わたし（個人）を問う（3）「われわれ」とは？②（国民国家、ナショナリズム）
5	わたし（個人）を問う（4）「愛する」とはなにか（家族、性愛、ジェンダー）
6	沖縄を社会学理論で捉える①戦争の記憶、沖縄アイデンティティ
7	社会（秩序）を問う（1）近代とはどのような時代か
8	社会（秩序）を問う（2）身体と規律権力（監獄、学校、病院）
9	社会（秩序）を問う（3）階級・階層の再生産（教育、労働、貧困）
10	社会（秩序）を問う（4）オリエンタリズム、ポストコロニアルという視点
11	沖縄を社会学理論で捉える②ポストコロニアルとしての沖縄
12	社会学理論の起源と展開（1）近代社会への問い（マルクス、ウェーバー）
13	社会学理論の起源と展開（2）客観主義と主観主義（ウェーバー、デュルケム）
14	社会学理論の起源と展開（3）二元論の乗り越え（ブルデュー、ルーマン）
15	社会学理論の課題、授業全体のまとめ
16	学期末テスト

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

授業への参加態度（30%）、小レポート（20%）、学期末試験（50%）。
詳細については初回のイントロダクションにてお知らせする。

【テキスト】

特定のテキストは指定しない。講義の必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

アンソニー・ギデンズ『社会学（第5版）』（而立書房、2009年）
ピエール・ブルデュー&ロイック・ヴァカン『リフレクシヴ・ソシオロジーへの招待』（藤原書店、2007年）

社会学理論Ⅱ

担当教員 秋山 道宏

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、基本的な社会学の考え方をふまえながら、わたしたちをとりまく現代社会の構造について理論的な理解を深める。ここでは、その目的のために「働くということ（労働・格差・貧困）」、「グローバリゼーション」および「オルタナティブな社会への動き」の三つのテーマを取り上げる。この講義を通して、現代社会のあり様とその変化をマクロな視点から理論的に把握するとともに、この社会を「不変のもの」としてではなく、「変りえるもの」と捉える視点を身につけてほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	働くということ (1) 賃金労働は当たり前か？資本主義とはなにかを考える
3	働くということ (2) 脱工業化時代の働き方の変化
4	働くということ (3) 女性の労働、働くことの不安定化、格差・貧困
5	働くということ (4) 労働をめぐる新たな動き（労働運動、ベイシック・インカム論）
6	グローバリゼーションを問う (1) 福祉国家、新自由主義、惨事便乗型資本主義
7	グローバリゼーションを問う (2) グローバルな格差・貧困（世界システム論）
8	グローバリゼーションを問う (3) 国家、ナショナリズムの変容
9	グローバリゼーションを問う (4) リスク社会論
10	オルタナティブな社会の希求 (1) 社会変動と社会運動の社会学
11	オルタナティブな社会の希求 (2) グローバリゼーションへの抵抗運動
12	オルタナティブな社会の希求 (3) 暴力、秩序、民主主義（ポスト3.11の社会）
13	オルタナティブな社会の希求 (4) 社会運動における「大学」という場
14	現代社会のなかでの沖縄
15	授業全体のまとめ
16	学期末テスト

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

授業への参加態度（30%）、小レポート（20%）、学期末試験（50%）。
詳細については初回のイントロダクションにてお知らせする。

【テキスト】

特定のテキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

中西新太郎・蓑輪明子編著『キーワードで読む現代日本社会』（旬報社、2012年）
白石嘉治・大野英士『増補ネオリベ現代生活批判序説』（新評論、2008年）

社会心理学 I

担当教員 泊 真児

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会心理学の領域で扱われている主要な研究知見，理論，研究方法，および，著名な研究者などについて概説し，「心理学検定」に合格できるような基礎知識の習得を目指します。取り上げるテーマは，自己，対人認知，態度，対人行動，友情と恋愛，を予定しています。受講生の要望等もふまえながら，なるべく日常的で身近な心理現象や話題を題材として講義を展開していきたいと考えています。そうした身近な事象を社会心理学的な視点から読み解いていくことを通して，科学的・客観的なものの見方・考え方を養っていくことを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	自己とは何か？ ～自己過程の心理学(1)～
3	自己を知るとは？ ～自己過程の心理学(2)～
4	他者を知るとは？ ～対人認知の心理学(1)～
5	他者を知るプロセスとは？ ～対人認知の心理学(2)～
6	原因を求める心 ～帰属過程の心理学～
7	態度と態度変容(1) ～態度の概念・測定法・理論を中心に～
8	態度と態度変容(2) ～依頼・勧誘・説得の社会心理学～
9	対人行動の動機と対人魅力とは？ ～対人行動の心理学(1)～
10	対人関係の形成・維持に関わる要因とは？ ～対人行動の心理学(2)～
11	対人関係の葛藤・ストレス・コーピング ～対人行動の心理学(3)～
12	友情・愛情・友人関係とは？ ～友人関係の心理学～
13	人を好きになる心とは？：恋愛関係の進展を中心に ～恋愛の心理学(1)～
14	人を好きになる心とは？：恋愛関係の不和・崩壊を中心に ～恋愛の心理学(2)～
15	全講義内容のまとめと試験案内
16	学期末試験（予定）

【履修上の注意事項】

- ・第1回目講義では，履修登録や授業内容等に関する重要な説明を行います。よって，欠席した学生の履修仮登録は，原則として取り消しますので，履修登録希望者は第1回目講義への出席が必須条件となります。
- ・学期末課題は，論述式の試験(持ち込み不可)を予定していますが，レポート課題に変更することもあります。
- ・授業への積極的な参加(個人や全体に向けて質問や発言)を求めます。私語や携帯，途中入退室等は厳禁です。
- ・授業の展開計画は，講義内容を含め，変更する場合があります。

【評価方法】

- ・成績評価は，出席状況15%，参加態度30%，学期末課題55%の内訳で，これらを総合評価して行います。ただし，いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に，毎回提出を求めるリアクションペーパーの質・量により評価します。
- ・学期末課題については，試験実施の場合，参考書や資料等の持ち込みを一切不可として行います。レポート課題を課す場合は，授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず，毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子 2010 社会心理学 有斐閣
 岡本浩一 1986 社会心理学ショート・ショート 新曜社
 ※上記2冊の他，授業内でほぼ毎回，関連文献を紹介します。

社会調査とコンピュータ I

担当教員 タダケラス トライタット

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会調査とコンピュータⅡ

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会調査法 I

担当教員 一宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 文化コース

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会調査法Ⅱ

担当教員 宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 文化コース

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会統計学 I

担当教員 一宮平 隆央

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会統計学Ⅱ

担当教員 一宮平 隆央

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

集落地理論 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

集落地理論 I では、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに絵図資料や地図資料の読解方法、空中写真を用いた景観分析の方法、さらにフィールドワークの方法に重点を置く。また、映像資料、民俗学・地域史などの研究成果を織り込みながら、沖縄村落の社会構造についてもふれる予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	村落地理学の研究史
2	村落と地図①－地形図の基礎－
3	村落と地図②－地形図の利用方法－
4	村落と地図③－空中写真の判読と利用方法
5	村落と地図④－国土基本図と地籍図－
6	村落と地図⑤－古地図と絵図資料－
7	村落の景観①－景観概念－
8	村落の景観②－沖縄村落の景観－
9	村落の景観③－景観研究の事例－
10	村落の景観④－景観調査の方法と実践－
11	村落の景観⑤－景観の政治性－
12	村落の社会構造①－沖縄村落の歴史地理－
13	村落の社会構造②－村落空間と祭祀構造－
14	村落の社会構造③－村落社会調査の方法と実践
15	村落景観と社会組織－巡検－
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。課題提出と出席を重視するので注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席点により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

仲松弥秀著『神と村』 梟社
田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社

集落地理論Ⅱ

担当教員 濱里 正史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

生涯学習概論

担当教員 稲福 政斉

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

生涯学習の重要性がいわれて久しい今日の社会において、人々がさまざまな知識や情報を得るための施設として、博物館は重要な役割を担っている。それゆえ、博物館学芸員には調査研究に裏付けられた高度な専門性はもとより、学習者の援助・指導のための生涯学習に関する基礎的な知識や技術の修得が不可欠である。この授業は、生涯学習とは何かという基本的なことから始まり、博物館と生涯学習とのかかわり、学芸員の果たすべき役割などについて学び、学芸員としての資質を養うことをねらいとする。

【授業の展開計画】

授業は、講義および実習により構成する。

講義では、博物館学芸員に求められる生涯学習についての基本的な考え方、基礎知識を中心に、おおむね次に掲げる内容を取り扱う。

1. 生涯学習とは
2. 生涯学習の領域
3. 生涯学習の形態と方法
4. 生涯教育と生涯学習
5. 生涯各期における学習の課題
6. 社会教育行政と生涯学習
7. 生涯学習支援のための施設
8. 博物館行政
9. 博物館における学芸員
10. 学芸員と生涯学習
11. 博物館ボランティアと生涯学習
12. NPOと生涯学習
13. 生涯学習と博物館のこれから

また実習では、実際に資料（もの）を調査して調書に記録し、これをもとに展示解説文を作成し、展示するという一連の作業を通じ、調査研究、展示、教育普及といった学芸業務と生涯学習との関連性について学習する。なお、博物館現場の今日的な実情等についても、随時授業の内容に反映させていく予定である。

【履修上の注意事項】

この授業では、博物館と生涯学習に関する内容はもとより、情報を的確に処理し、それをもとに考え理解を深めるという、学芸員に求められる資質の修得もあわせて目的としている。そのため、板書やレジュメでは要点のみを示して内容を詳述しない。重要と思われる箇所は各自ノートなどにまとめて十分に理解することを要する。また、課題等は締切後の提出を一切受付けないので、提出期限は厳守するよう留意されたい。

【評価方法】

本学の学部履修規程第16条に基づき、100点を満点とし、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可として評価を行う。
なお、採点基準は 講義への出席（20点）・小考査（20点）・実習に係る提出物（30点）・レポート等（30点）とし、詳細は初回講義の冒頭で説明する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。
毎回配布するレジュメおよび資料により、講義・実習を進める。

【参考文献】

- 倉内史郎・鈴木眞理 編著 『生涯学習の基礎』1998年 学文社
- 全国大学博物館講座協議会西日本部会 編 『概説 博物館学』2002年 芙蓉書房出版

ジェンダーの思想

担当教員 武田 一博

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ジェンダーとは、生物学上の性差（セックス）とは異なり、社会的文化的に形成された性差のことです。たとえば、女性であれば家事育児は義務だと強制されるように、ジェンダーに基づく意識によって、われわれの価値観や行為は規定されています。最近、若い人たちの間で、男女にこだわらず育児などに積極的に関わっていかうとする、新しい時代傾向が見られますが、社会全体では、まだまだ伝統的で保守的なジェンダー観にとらわれた、男女の役割分担のアンバランスが残っています。そうした問題を改めて考えることで、新たな自分発見のきっかけにしてほしいと思います。

【授業の展開計画】

- ・講義全体の説明
- ・ジェンダーとは何か？
- ・性別は男と女だけではない
- ・男ことばと女ことば、どこが違う？
- ・脳のつくりが違うから、男女の役割も違っていい？
- ・「女だから女らしく、男だから男らしくすべき」は変では？
- ・ジェンダーとセクシャリティー（性的魅力）の違い
- ・家庭で作られるジェンダー
- ・恋人や夫婦間で起こるDV
- ・女性の働き方、職場を変えたセクハラ訴訟
- ・ジェンダーバッシング（攻撃）
- ・「男女共同参画社会基本法」のめざすもの
- ・男女問わず平等かつ自由に生きたい！
- ・レポート提出

テーマごとの時間数はほぼ1～2時間ですが、講義の進み具合によっては若干の変更があります。

【履修上の注意事項】

私語と居眠りは厳禁です。レジュメなどの配布はしません。全体として、講義形式で進めていきますので、しっかりノートをとるようにして下さい。ただし、ディスカッションをしばしば取り入れ、皆の意見や考えを聞きながら、一方通行にならないようにして行く予定です。ふだんから、ジェンダーの問題を考えるようにしておいてください。

【評価方法】

出席点は考慮しません。日頃の発言、質問をよくする人は、それを加味します。成績の主な部分は、レポートで評価します。レポートは、2回目の講義時に行う諸注意をよく守って、作成してください。

【テキスト】

特に指定しません。

【参考文献】

講義中に適宜、紹介します。

実習

担当教員 稲福 みき子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 実験実習

単位数 2

【授業のねらい】

実習調査は、民俗学のデータ収集の場であるとともに、理論検証の場と位置づけられる。村落祭祀の観察調査を軸に、グループごとのテーマを持って調査を行う。その過程を通じて調査の方法を培い、民俗文化への理解を深める。基礎演習で、実習についての事前学習と調査後の資料整理し、ゼミ報告書『民俗研究』43号を作成する。

【授業の展開計画】

- ①夏期休暇中、1週間ほどの日程で現地調査を行う。
- ②調査地は予備調査を経て決定する。
- ③調査は、村落祭祀の観察、聞き取りを中心に、社会組織、祭祀組織、人生儀礼など各グループのテーマごとにテーマを設定して行う。
- ④実習中は、毎日1～2時間の報告・討論の場をもつ。

【履修上の注意事項】

調査は、現地の方々の協力が得られなければ成立しない。積極的な取り組みと同時に節度ある行動を心がけること。

【評価方法】

フィールドワークに対してどれだけ積極的に取り組んだのかということで評価する。

【テキスト】

ゼミ報告書『民俗研究』1号から41号。『民俗調査ハンドブック』（吉川弘文館）。他に適宜紹介する。

【参考文献】

実習

担当教員 上原 静

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 実験実習

単位数 2

【授業のねらい】

先史古代遺跡を実際に発掘する。そのことにより、調査の方法(遺跡周辺の古環境及び変化の実態を聞き取り、地形測量、層位の識別、遺物の検出、実測整理、統計整理、図版の作成等)を学ぶ。遺跡の発掘調査は一種の遺跡破壊行為である。一度発掘してしまうと、遺跡は再び元に戻らない。このことを十分に認識して、調査には周到な計画と細心の注意が必要であることを理解してもらう。そうすることによって、報告書の意義を認識してもらう。

【授業の展開計画】

- 1、沖縄の先史文化について紹介する。
 - 2、考古学の考え方を把握してもらう。
 - 3、土器、石器、骨器、陶磁器、その他の人工遺物を調べ、発表する。
 - 4、測量、写真技術を習得し、遺跡の地形図作成や写真撮影などの訓練をおこなう。
 - 5、出土遺物の洗浄、注記、接合、集計をおこなう。
 - 6、出土遺物の実測図を作成し、報告書にまとめる。
- 1年間のスケジュールは前期に1～3を調査前の基本的な知識として学び、夏休み休暇に発掘実習を実施する。その際に4を中心とした点を習得する。
後期から5～6までの内容に取り組み、その成果としての発掘調査報告書を2月末までに刊行する。

【履修上の注意事項】

夏期の発掘実習に必ず参加すること。
実習は技術の習得に力点をおくので、講義時間以外にも遺物の整理に従事すること。

【評価方法】

レポート、テストを数回、随時に課す。
遅刻・欠席は減点の対象とする。

【テキスト】

文化財保護委員会『埋蔵文化財発掘調査の手引き』国土地理協会 1967

【参考文献】

実習

担当教員 宮城 邦治

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 実験実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

島嶼的特性の沖縄の地域（島でありシマでもある）の歴史、社会、文化への理解を深めることを目的とする。調査地と調査テーマを決め、社会環境と自然環境の視点から巡検調査をおこなう。

【授業の展開計画】

前期) 「基礎演習」で複数の調査地とテーマを決め後に、複補地の巡検を実施する。候補地では地域の自然環境などの特性を把握しつつ、先々の調査テーマになりそう要素（集落景観、湧水、生業など）の洗い出しを行う。前期には3～4ヶ所の地域を巡検する。

後期) 前期同様に3～4ヶ所の異なる調査候補地の巡検を実施し、調査テーマの精査を行う。

【履修上の注意事項】

実習日程は登録学生との調整でおこなうことから、決定した日程には必ず参加すること。様々な事由で参加できない場合は速やかに連絡すること。

【評価方法】

実習への参加回数、レポートの提出回数などを勘案して評価する。

【テキスト】

調査地、テーマなどが決まり次第、すみやかにテキスト、資料などを告示または配布する。

【参考文献】

調査地、テーマなどが決まり次第、関連する文献などを告示または配布する。

実習

担当教員 内海（宮城）恵美子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 実験実習

単位数 2

【授業のねらい】

本実習は、基礎演習（総社・2年必修・内海担当）と連動する集中講義であり、質的調査と量的調査を相互補完的に組み合わせ、調査企画から報告書作成に至る社会調査の一連のプロセスを実践的に学んでいく。

本実習の主要テーマは「沖縄の社会問題とその現代的課題」である。少子高齢化とグローバル化が進行する中で、複雑化・多様化する沖縄の社会問題とその現代的課題を、現地調査によって多角的に理解していく。沖縄戦と米軍基地の問題を学び直し、女性・高齢者・移民・子ども・障がい者など社会的マイノリティの視座に立つことで、人々が生きる社会関係と現代沖縄社会が抱える構造的問題を多面的かつ複眼的に把握する。

【授業の展開計画】

集中講義における調査の実施に先立ち、基礎演習（総文・2年必修・内海担当）で社会問題を分析する社会学の諸理論と分析の視座、沖縄の社会問題に関する先行研究を整理し、基礎的知識を身につける。一つの共通テーマを決め、共通テーマのもと複数のサブテーマを設定し、グループごとに調査の企画・設計、仮設・調査項目の設定、インタビューガイド・調査票の作成、対象者・地域の選定を実施する。その後、本集中講座にて、受講生全員でグループごとに現地調査を実施する。実査後は、基礎演習において、収集したデータの集計・分析、口頭報告及び報告書の作成を行う。

①調査の実施時期： 原則として夏期休暇中に集中的に現地調査を行う。

②調査の概要： 沖縄社会において複雑化・多様化する社会問題とその現代的課題を多面的に理解するために、授業で決定した共通テーマ（沖縄戦・米軍基地、性・生殖、家族、介護・育児、労働、医療・福祉、文化、ジェンダー、エスニシティ、アイデンティティ、その他の社会問題）のもと、複数のサブテーマを設定し、グループごとに調査の企画・設計、仮設・調査項目の設定、インタビューガイド・調査票の作成、対象者・地域の選定、実査、収集したデータの集計・分析、報告書の作成を行う。

③調査対象： 沖縄県を中心に、テーマに応じて、官庁、企業、学校、病院、福祉施設、地域住民、NGO・NPO団体、自助グループや当事者団体を調査対象とする。

④主な調査項目：（1）統計資料による客観的把握、（2）行政による政策・制度の実態、（3）民間の多様なアクターによる取組の実態（問題の背景、目的、活動内容、今後の課題など）、（4）調査対象集団・者の意識、（5）その他

⑤データ収集の方法： 設定したテーマに応じて、質的調査（フィールドワーク、インタビュー法、ビジュアル分析など）と量的調査（調査票調査）を相互補完的に組み合わせる。

⑥その他：（1）調査地と調査項目は学生の関心を優先して決定する。（2）実習期間中に必要に応じて、報告・討論の場を設ける。

【履修上の注意事項】

★通年科目「基礎演習」（内海担当）との連動科目である★

①学生は、調査地域および対象者に不快感を与えないよう、調査倫理に則った節度のある行動を要する。協力してくれる調査対象者に感謝し、対象者の意志を尊重した誠実な対応を心がけること。

②調査実習に主体的かつ意欲的に取り組むとともに、グループによる調査を通じて協同性を培うこと。

③各自、録音機器やデジタルカメラ、ノート（フィールドノート用）など調査に必要な道具・機材を用意する。

【評価方法】

実習に取り組む姿勢と報告・討論の内容を総合的に評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

実習

担当教員 田名 真之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 実験実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習（南島歴史学）での事前学習を踏まえて取り組む歴史史料調査の実習。夏休み期間中に1週間程度、「沖縄県公文書館」で、琉政文書（琉球政府の行政文書）を中心とした公文書やその他史料をもとに、史料の検索の方法、収集、分析などについて学習する。その後の報告書作成に向けては関係者への聞き取りなども視野に入れる。

【授業の展開計画】

1. 事前学習段階で、班（3～4人）を編成
2. 班ごとに調査テーマを決め、キーワードを設定
3. 夏季休暇中、「公文書館」での調査
4. 補足調査、関係者、機関への聞き取りも想定
5. 調査結果の整理、分析および報告
6. 調査報告書の作成

【履修上の注意事項】

1. 実習調査は必修で、参加が義務づけられていることを心得ておくこと。
2. 班単位での共同作業であり、全員の協力体制が不可欠、その点常に心がけること。

【評価方法】

実習に取り組む姿勢と報告などを総合的に評価する

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する

実習

担当教員 石垣 直

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 実験実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本実習の目的は、さまざまな社会科学研究において重視されるようになってきた現地調査（フィールドワーク）・参与観察の実施を通じて、現地社会・文化に対する理解を深めることにある。本実習は基礎演習と連動しており、後期の基礎演習では、調査成果の整理・分析を通じて、最終的には調査報告書の作成を目指す。

【授業の展開計画】

- ①夏休みにおける現地調査の実施（1週間程度）、および冬季の補足調査（2日程度）
- ②現地調査手法としての聞き取り調査、アンケート調査
- ③現地調査の進捗状況に応じた中間報告・討議

【履修上の注意事項】

現地調査を行う上では、（調査対象社会およびそこで活動する人びとから）「学ばせていただく」という姿勢が重要である。調査対象者・協力者に対する誠実な態度が求められることを明確に意識した上で、現地調査への主体的な参加・参与を望む。

【評価方法】

現地調査に対する態度、ならびに調査中・調査後の成果報告や質疑応答への参与態度に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

適宜紹介。

【参考文献】

適宜紹介。

実習

担当教員 鳥山 淳

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 集中

授業形態 実験実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習の取り組みをふまえて、夏期実習（フィールドワーク）を行う。平和研究の視点から、「地域の歩みと現在」を調査し、記録する方法を修得していく。事前の準備や調査の依頼、調査の実践、記録の作成が主な作業となる。テーマおよび調査地については、基礎演習の授業の中で決定する。

【授業の展開計画】

夏期休暇中に集中して調査を行い、必要に応じて報告や議論を交えながら進める。

【履修上の注意事項】

グループ作業であることを常に念頭におきながら、互いに議論し積極的に実践するよう心がけてほしい。そして調査に応じてくれる方々の心情を想像し、責任感と誠意をもって対応することの大切さを学んでほしい。

【評価方法】

取り組みの姿勢を最重視して評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

卒業論文指導演習

担当教員 鳥山 淳

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自が選択したテーマに沿って考察と調査を進め、その成果を卒業論文としてまとめることができるように、継続的に作業を進める。そのために必要とされる研究方法の修得・資料の収集・調査の実践について、ゼミの場で報告・議論しながら進めていく。

【授業の展開計画】

前期は、まず各自がテーマを決定し、自分の論文を作成するために必要とされる作業を把握できるようにする。そのうえで、夏期休暇中に本格的な調査を進めることができるよう、準備を進める。その進捗状況について、ゼミでの報告を求める。

後期は、それまでの調査をまとめて中間報告を行ったうえで、論文の完成に向けて作業を進める。

【履修上の注意事項】

自ら考え、主体的に取り組む覚悟をもって履修すること。

【評価方法】

論文作成に向けた取り組みと提出された論文に基づいて評価する。

【テキスト】

指定しない。（各自で積極的に情報を集めること）

【参考文献】

指定しない。（各自で積極的に情報を集めること）

卒業論文指導演習

担当教員 石垣 直

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本演習の目的は、基礎演習と実習（2年生）および演習（3年生）で学んできた成果を踏まえ、各ゼミ生自らが設定する研究テーマにそって、文献収集・研究、調査計画の策定、実地調査、調査・研究成果の整理・分析をへて、卒業論文を作成することにある。夏休みなどを利用して各自で現地調査を実施し、後期には調査・研究成果の発表・議論をへて卒業論文の作成・編集を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	調査成果発表と質疑応答（1）
2	アジア・人類学関連文献の輪読（1）	18	調査成果発表と質疑応答（2）
3	アジア・人類学関連文献の輪読（2）	19	調査成果発表と質疑応答（3）
4	アジア・人類学関連文献の輪読（3）	20	調査成果発表と質疑応答（4）
5	学術論文作法	21	調査成果発表と質疑応答（5）
6	テーマ設定（1）	22	調査成果発表と質疑応答（6）
7	テーマ設定（2）	23	中間発表会（1）
8	文献研究（1）	24	中間発表会（2）
9	文献研究（2）	25	調査成果発表と質疑応答（7）
10	文献研究（3）	26	調査成果発表と質疑応答（8）
11	文献研究（4）	27	論文作成・指導（1）
12	文献研究（5）	28	論文作成・指導（2）
13	文献研究（6）	29	論文作成・指導（3）
14	調査計画、質問事項等の作成（1）	30	論文作成・指導（4）
15	調査計画、質問事項等の作成（2）	31	卒業論文集の編集・印刷
16	（予備日）		

【履修上の注意事項】

卒業論文作成のためのゼミである本演習では、2年次の基礎演習および3年次の演習における文献研究や現地調査経験を踏まえつつ、各ゼミ生が本学部本学科で学んできたことの集大成として、卒業論文をまとめてほしい。

【評価方法】

出席・授業への参加姿勢（40%）、調査成果・論文評価（60%）。卒業論文の内容はもとより、各ゼミ生の出席および演習への参加姿勢を重視して総合的に評価する。

【テキスト】

演習のなかで適宜紹介。

【参考文献】

演習のなかで適宜紹介。

卒業論文指導演習

担当教員 稲福 みき子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自の設定したテーマに従って、文献検索・調査・資料整理・論文作成をおこなう。前期に文献調査と論文の書き方の基礎知識、資料の収集方法を検討し、夏期休暇中に調査を実施、後期は資料の整理と論文作成にあたる。

【授業の展開計画】

前期・後期

- 1 論文テーマを決める
- 2 テーマに沿った文献の検索と整理を行う
- 3 調査地、方法を検討する
- 4 テーマの意義、研究史、調査計画を発表する
- 5 調査実施後の整理と検討
- 6 論文の執筆
- 7 論文の提出
- 8 卒論発表会を行う

【履修上の注意事項】

研究計画書を提出することおよび調査の経過報告をおこなうこと。また、本演習を履修して卒業論文を提出した場合は、さらに4単位を認定する。卒業論文の要件を満たせず、演習レポートとなる場合は本演習4単位のみ認定する。

【評価方法】

論文作成過程、調査への取り組み、論文の内容によって評価する。

【テキスト】

個別テーマに応じて紹介する。

【参考文献】

卒業論文指導演習

担当教員 宮城 邦治

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習、実習、演習などを通して調査してきたテーマを、卒業論文としてまとめることが目的であり、そのための指導をおこなうものである。

【授業の展開計画】

- 前期) 「基礎演習」「演習」で調査してきたテーマを各自で「卒業論文」としてまとめることを指導する。提出された資料や原稿などを吟味し、補足調査が必要なものについては再度調査を行わせる。
- 後期) 前期で確定した原稿を、詳細にチェックして「卒業論文」としての最終稿を用意させる。提出締め切り日は社会文化学科の取り決めにより厳守させる。

【履修上の注意事項】

これまでに調査してきたテーマを暫時まとめて報告発表すること。環境学を専攻する学生は極力、卒業論文をまとめるよう努力すること。

【評価方法】

調査テーマの報告発表と授業への参加および卒業論文の作成提出などを勘案して評価する。

【テキスト】

卒業論文の調査テーマに関連するテキストなどは適宜告示する。

【参考文献】

卒業論文の調査テーマに関する資料、文献などは適宜告示または配布する。

卒業論文指導演習

担当教員 田名 真之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文の作成に向けて、各自テーマを設定し、文献、史料の調査、収集を行い、論文の目次、構成を考え、中間報告、進捗状況報告などを経て、論文を完成させる。

【授業の展開計画】

1. 年間スケジュールを立てる
2. 論文の目次の作成
3. 中間報告（10月）
4. 下書き原稿作成（12月）
5. 論文提出（1月下旬）

週	授業の内容	週	授業の内容
1	年間スケジュール確認	17	卒論進捗状況の報告
2	論文作成について 論文講読	18	論文講読
3	卒論テーマ発表	19	同上
4	論文講読 — 輪読 割り当て	20	同上
5	同上	21	卒論第2回発表
6	同上	22	同上
7	同上 卒論目次案提出	23	同上
8	同上	24	同上
9	同上 先行研究、参考文献提出	25	卒論仮提出
10	同上	26	卒論—添削指導
11	卒論中間発表(各自20分)質疑・応答	27	同上
12	同上	28	同上
13	同上	29	卒論論文集作成について — 作業
14	同上	30	同上
15	論文講読	31	卒論発表会 準備
16	夏期休暇中の卒論準備計画発表		

【履修上の注意事項】

毎回出席し、他の報告にも質疑応答など積極的に参加すること

【評価方法】

卒論への取り組み、卒論の内容により評価

【テキスト】

【参考文献】

全員、及び各自に対する参考文献は適宜紹介する

卒業論文指導演習

担当教員 上原 静

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自、関心のあるテーマを設定する。
遺跡の報告書をもって卒業論文にかえることもある。

【授業の展開計画】

関心のあるテーマについて、学史を調べリポートを作成する。
夏期休暇までに、卒論の骨子をまとめ、簡単な肉付けをする。
後期に不備な点を補い、本格的な執筆にはいる。

【履修上の注意事項】

3分の2以上出席すること。
遅刻・欠席は減点の対象とする。

【評価方法】

課題レポートや論文の内容

【テキスト】

個別テーマに応じて随時推薦する。

【参考文献】

中国の言語と文化 I

担当教員 石垣 直

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中国は歴史的に沖縄と深い関わりあいをもってきた国・地域である。中国はまた、近代になって沖縄が本格的に日本の国家制度に組み込まれてきた歴史、日本の近代・現代、さらには21世紀のアジアおよび世界を考えるうえで、とても重要な参照対象である。本講義では、地理・歴史、言語・哲学・思想・宗教、親族・人間関係、政治・経済といったさまざまなトピックから多面的に迫ることで、「巨大な隣人」についての理解を深めることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	中国の概要——基礎データ
3	中国の歴史（1）——華夷秩序と歴代王朝の交代劇
4	中国の歴史（2）——二人の「最終皇帝」、溥儀と毛沢東
5	中国語の世界（1）——漢語・漢字の歴史と「中国人」
6	中国語の世界（2）——中国語入門
7	中国社会の構造（1）——親族関係
8	中国社会の構造（2）——人間関係・社会関係
9	映像鑑賞——中国の伝統文化・宗教世界
10	中国の思想と宗教（1）——年中行事、儒教
11	中国の思想と宗教（2）——仏教、道教、風水
12	中国の思想と宗教（3）——民俗宗教の世界
13	現代中国の現状と課題——政治・経済、民族問題
14	映像鑑賞——現代中国の現実
15	まとめ——中国文化と現代社会
16	期末試験

【履修上の注意事項】

毎回の講義の際に、出席確認をかねて、受講生にリアクション・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することがあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（30%）、期末テスト（70%）

毎回の授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのリアクション・ペーパーの提出を求める。また、学期末には講義内容にかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

瀬川昌久2004『中国社会の人類学——親族・家族からの展望』京都：世界思想社

東洋文化研究会（編）2005『中国の暮らしと文化を知るための40章 エリア・スタディーズ』東京：明石書店

渡邊欣雄1991『漢民族の宗教——社会人類学的分析』東京：第一書房

島嶼環境論 I

担当教員 渡久地 健

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

島嶼とは、海の中の大小さまざまな陸地（島, islands）で、地球規模でいえば、グリーンランド以下の陸地を指す。その一般的な特徴として、①海に囲まれ、②大陸（continent）あるいは本土（mainland）から隔絶された、③面積の小さい空間ということができる。本授業では、島嶼環境（生態系）について、太平洋の島々（ミクロネシア、メラネシア、ポリネシア）、奄美・沖縄・小笠原など熱帯・亜熱帯の島々を事例に学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロ
2	島の形成
3	島の分類 (1) オセアニアの島々
4	島の分類 (2) 琉球列島の島々
5	島の生物地理学 (1) 小さい島／大きい島
6	島の生物地理学 (2) 近い島／遠い島
7	島の生物相の成り立ち (1) オセアニアの事例
8	島の生物相の成り立ち (2) 琉球列島の事例
9	島の生物相の成り立ち (3) 小笠原諸島の事例
10	島を取り巻く海の影響 (1) ハワイの気候
11	島を取り巻く海の影響 (2) ガラパゴス諸島
12	島を取り巻くサンゴ礁 (1) 生態系
13	島を取り巻くサンゴ礁 (2) 地形
14	島を縁取る植物 (1) マングローブ
15	島を縁取る植物 (2) 海岸植生
16	期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

(1) 期末試験, (2) 宿題, (3) 出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

テキスト（教科書）は使用しない。毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

- (1) 小野幹雄『孤島の生物たち——ガラパゴスと小笠原』, 岩波書店, 1994
- (2) 伊藤秀三『島の植物誌——進化と生態の謎』講談社, 1994
- (3) 小笠原自然環境研究会編『小笠原の自然——東洋のガラパゴス』, 古今書院, 1992

島嶼環境論Ⅱ

担当教員 渡久地 健

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

前期の「島嶼環境論Ⅰ」では、島の自然環境の成り立ちを学んだが、後期の「島嶼環境論Ⅱ」では、太平洋の島々（ミクロネシア・メラネシア・ポリネシア）、奄美・沖縄の島々を事例に島の自然と人間の関係について、学ぶ。すなわち、小さな陸地（島）における人間の暮らし、（2）島を取り巻く海の資源利用、（3）島々の交易などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロ
2	小島の環境と生活 (1) ミクロネシアの島嶼経済
3	小島の環境と人間 (2) ポリネシアの環礁島の植物資源利用
4	小島の環境と人間 (3) 沖縄離島の植物利用
5	小島の環境と人間 (4) 八重山諸島の自然と農業
6	島を取り巻く海と人間 (1) 奄美のサンゴ礁の資源利用
7	島を取り巻く海と人間 (1) 沖縄のサンゴ礁の資源利用
8	島を取り巻く海と人間 (2) サンゴ礁の民俗分類
9	島を取り巻く海と人間 (3) サンゴ礁の地名
10	島を取り巻く海と人間 (4) 正保国絵図にみるサンゴ礁と港
11	島を取り巻く海と人間 (5) 明治期水路誌にみるサンゴ礁と港
12	島を取り巻く海と人間 (6) 糸満系漁民とサンゴ礁漁撈
13	島を取り巻く海と人間 (7) 糸満漁民の底延縄漁
14	交流・交易の結節点としての島々 (1) インド洋における交易ネットワーク
15	交流・交易の結節点としての島々 (2) 琉球列島における島々の交易
16	期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

(1) 期末試験、(2) 宿題、(3) 出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

テキスト（教科書）は使用しない。毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

- (1) 藤田陽子・渡久地健・かりまたしげひさ編『島嶼地域の新たな展望——自然・文化・社会の融合体としての島々』，九州大学出版会，2014
- (2) 安溪遊地・当山昌直編『奄美沖縄環境史資料集成』，文一総合出版，2011

都市社会学 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

都市社会学Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島社会学 I

担当教員 石川 朋子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島社会学Ⅱ

担当教員 石川 朋子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島先史学 I

担当教員 上原 静

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

先史文化の概観に先立ち、琉球列島がいつ、どのように出来上がったか、地質学上の成果を紹介する。その後に、旧石器時代、縄文時代の人々の生活文化とその島嶼における適応の過程について概説する。

【授業の展開計画】

- 1 琉球列島の成立
- 2 沖縄諸島の成立
- 3 八重山諸島の成立
- 4 島尻海
- 5 琉球珊瑚海
- 6 段丘時代の森
- 7 琉球諸島の動物
- 8 宮古ビンザアブ
- 9 化石人類
- 10 沖縄諸島の先史時代
- 11 先史文化の特徴
- 12 ヒトと沖縄の島
- 13 動物遺体と植物遺体
- 14 沖縄人の起源
- 15 前期末テスト

【履修上の注意事項】

遅刻、欠席は減点の対象とする。

【評価方法】

受講姿勢、レポート、テストを総合して評価する。

【テキスト】

適宜指導する。

【参考文献】

沖縄の考古学、地質学に関する専門図書、報告書

南島先史学Ⅱ

担当教員 安里 嗣淳

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

南島先史時代の概要についてすでに基礎的知識を有していることを前提に、さらにその諸相について検討する。また、関連する近隣海外の先史文化についても映像を含めて紹介する。

【授業の展開計画】

1. 「与那国海底遺跡説」批判—南琉球と周辺海外の石造文化（2回）
2. 「多和田編年」の成立過程（2回）
3. 「ビンフォード」と沖縄（2回）（英語文献講読含む）
沖縄体験で考古学を志した「ニューアーケオロジー」の旗手（2回）
付 「SIRI」会議とG. H. カー著『琉球の歴史』誕生の経緯含む
4. 「榕の原型石斧」文化は沖縄に存在したか（2回）
付 小田静夫の東南アジア丸ノミ石斧との関連説批判
5. 貝斧文化（2回）
南琉球の貝斧文化（英文文献講読含む）
フィリピンと南太平洋諸島の貝斧文化
パロボク岩蔭遺跡の発掘調査（南フィリピン）映像中心
ローゼンダールの貝斧分類（英文文献講読）
6. 先史沖縄の居住環境と交通—島嶼・水源・丘・砂丘・サンゴ礁・石材・イノシシ・森林
7. シカ骨角器文化の「発見」から「非人工説」まで（2回）
英文講読、中国語聴取含む
8. 沖縄考古学史余話
沖縄考古学研究史のいくつかのエピソードを紹介する
学史の人々、発見エピソードなど

【履修上の注意事項】

遅刻・欠席は減点の対象とする。

【評価方法】

テストを行う。

【テキスト】

講義の都度、資料を配布する。

【参考文献】

講義の中で紹介する。

南島の民俗社会 I

担当教員 高江洲 敦子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島の民俗文化 I

担当教員 宮平 盛晃

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本南西端に位置する亜熱帯の「沖縄」には、様々な民俗文化が息づいてきた。しかし、「沖縄」という言葉でくくられる島々の習俗は決して一様ではない。講義では、村落・聖地・神役・家族・親族・年中行事・人生儀礼・祖先祭祀などをテーマに取り上げ、「沖縄の民俗文化」の様相と現状、その地域性の理解を目指す。

【授業の展開計画】

1. 村落 (1)
2. " (2)
3. 聖地 (1)
4. " (2)
5. 神役
6. 年中行事 (1)
7. " (2)
8. " (3)
9. 親族
10. 人生儀礼 (1)
11. " (2)
12. 祖先祭祀 (1)
13. " (2)
14. 家と墓
15. 妖怪

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と受講態度、最終レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

講義は、毎回配布するレジユメに沿って、スライド（写真、映像）を用いながら行う。

【参考文献】

南島の民俗文化Ⅱ

担当教員 高江洲 敦子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島民俗学 I

担当教員 阿利 よし乃

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の民俗文化研究において重要な役割を果たした諸先達を取りあげ、その生涯と学問の展開を時代的な背景を考慮しながら追い、その代表的な論文の一つにふれる。そうした作業を通じて、沖縄の民俗文化研究のエッセンスへ接近したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス、沖縄民俗研究史概要(1)
2	沖縄民俗研究史概要(2)
3	柳田国男と沖縄研究(1)
4	〃 (2)
5	折口信夫と沖縄研究
6	伊波普猷と沖縄研究(1)
7	〃 (2)
8	比嘉春潮の沖縄研究(1)
9	〃 (2)
10	金城朝永の沖縄研究(1)
11	〃 (2)
12	仲原善忠の沖縄研究(1)
13	〃 (2)
14	佐喜真興英の沖縄研究(1)
15	〃 (2)
16	

【履修上の注意事項】

講義に先立って資料を配布するので、予め目を通して講義に望むこと。
講義の最後10分間は感想文を書く時間とする。

【評価方法】

出席状況、講義の感想文、中間レポートと期末レポートによる。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献】

講義のなかで随時、紹介する。

南島民俗学Ⅱ

担当教員 阿利 よし乃

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

戦後の沖縄を対象とした民俗学的、文化人類学的な研究の理解を目指す。とくに、社会組織と民俗宗教を課題とした研究に焦点を絞り、代表的な論文を取り上げる。具体的には門中や御嶽への所属、女性神役に関する研究、または祖先祭祀の研究などである。それぞれの研究者の生涯や時代的背景、ならびに研究の流れを踏まえて、実際に論文を読む。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイドンス
2	柳宗悦と沖縄－方言論争
3	外国人による沖縄研究(1) - W. リブラ『沖縄の宗教と社会構造』①
4	外国人による沖縄研究(1) - W. リブラ『沖縄の宗教と社会構造』②
5	外国人による沖縄研究(2) - C. アウエハント『HATERUMA』①
6	外国人による沖縄研究(2) - C. アウエハント『HATERUMA』②
7	馬淵東一の研究(1) - 「波照間島その他の氏子組織」
8	馬淵東一の研究(2) - 「琉球世界観の再構成を目指して」
9	櫻井徳太郎の研究 - 「沖縄民俗宗教の核－祝女イズムと巫女イズム」
10	竹田旦の研究
11	仲松弥秀の研究 - 『神と村』
12	比嘉政夫の研究
13	女性に焦点を絞った門中研究
14	まとめ、研究史を振り返る－沖縄の社会組織と民俗宗教
15	社会組織と民俗宗教を連続的に捉える－八重山諸島における女性神役の継承方式を事例として
16	

【履修上の注意事項】

講義の最後10分間は感想文を書く時間とする。

【評価方法】

出席状況、講義の感想文、中間レポートと期末レポートによる。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献】

授業の展開計画のとおり。
その他は講義時に随時紹介する。

日本史概論 I

担当教員 新城 俊昭

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちが過去をふり返り、ある出来事について語ることは、現在の歴史観で過去の歴史事実に評価を下していることになる。いわば、現在の歴史観が明日の歴史の指針を示しているといえよう。私たちが過去の歴史事実にこだわるのは、その歴史評価を下している現在の目が、そのまま未来を見つめているからにほかならない。本講義では、日本の原始・古代から近世初期までの歴史を、史料・資料の分析を通して歴史事象の因果関係を明らかにし、その歴史的意義について考察する。

【授業の展開計画】

旧石器時代から室町時代までの歴史を概観するとともに、毎時間テーマを設定して学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培う。また、琉球・沖縄史にも視野を広げ、ウチナーンチュのアイデンティティの形成についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	旧石器時代の日本について港川人を中心に学ぶ。
2	縄文時代から弥生時代への移行について邪馬台国論争を中心に学ぶ。
3	大和政権の成立・発展と東アジア社会について学ぶ。
4	推古朝の政治と飛鳥文化について学ぶ。
5	平安初期の政治と文化について学ぶ。
6	摂関政治と国風文化について学ぶ。
7	武士の台頭と平氏政権について学ぶ。
8	鎌倉幕府の成立と執権政治の展開について学ぶ。
9	元寇と幕府の衰退及び鎌倉文化について学ぶ。
10	南北朝の動乱と室町幕府の政治・外交について学ぶ。
11	琉球王国の成立と発展について学ぶ。
12	東アジア社会と琉球の大交易時代について学ぶ。
13	惣村の発展と応仁の乱及び室町文化について学ぶ。
14	戦国の争乱とヨーロッパ人の来航について学ぶ。
15	授業のまとめ。沖縄歴史検定等で琉球・沖縄史についてのまとめ学習もする。
16	期末試験。

【履修上の注意事項】

特になし。毎回のテーマの進捗状況によって、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】

毎時間の評価及び課題と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から出題する。配分は毎時間の授業評価3割、課題3割、テスト4割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

特に指定教科書はない。毎回レジュメや史料・絵図などの参考資料を配布。副読本として『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）を使用。

【参考文献】

プリントで配布または毎時間授業で紹介。

日本史概論Ⅱ

担当教員 新城 俊昭

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちが過去をふり返り、ある出来事について語ることは、現在の歴史観で過去の歴史事実に評価を下していることになる。いわば、現在の歴史観が明日の歴史の指針を示しているといえよう。私たちが過去の歴史事実にこだわるのは、その歴史評価を下している現在の目が、そのまま未来を見つめているからにほかならない。本講義では、日本の近世から現代までの歴史を、史料・資料の分析を通して歴史事象の因果関係を明らかにし、その歴史的意義について考察する。

【授業の展開計画】

織豊政権から現代までの歴史を概観するとともに、毎時間テーマを設定して学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培う。また、琉球・沖縄史にも視野を広げ、ウチナーンチュのアイデンティティの形成についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	豊臣秀吉と琉球の関係について学ぶ。
2	江戸幕府の成立と幕藩制国家の仕組みについて学ぶ。
3	薩摩藩島津氏の琉球侵略について学ぶ。
4	幕藩制国家に組み込まれた近世琉球の社会と文化について学ぶ。
5	欧米列強の進出と日本の開国について学ぶ。
6	明治維新と廃琉置県(琉球処分)について学ぶ。
7	近代日本における沖縄の位置づけについて学ぶ。
8	不平等条約の改正と国境の確定について学ぶ。
9	日清戦争・日露戦争と沖縄の日本への同化について学ぶ。
10	第一次世界大戦と国際社会における日本の動向について学ぶ。
11	アジア太平洋戦争と沖縄戦の実相から見えるものについて学ぶ。
12	戦後日本の政治と米軍支配時代の沖縄について学ぶ。
13	高度経済成長期の日本と沖縄の「祖国復帰運動」について学ぶ。
14	現代日本の課題と沖縄の基地問題について学ぶ。
15	授業のまとめ。沖縄歴史検定等で琉球・沖縄史についてのまとめ学習もする。
16	期末試験。

【履修上の注意事項】

特になし。毎回のテーマの進捗状況によって、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】

毎時間の評価及び課題と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から出題する。配分は毎時間の授業評価3割、課題3割、テスト4割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

教科書は特に指定しない。毎回レジュメや史料・絵図などの参考資料を配布。副読本として『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）を使用。

【参考文献】

プリントで配布または毎時間授業で紹介。

人間環境論 I

担当教員 佐藤 寛之

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

人間環境論Ⅱ

担当教員 佐藤 寛之

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

比較民俗学Ⅰ

担当教員 神谷 智昭

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

比較民俗学Ⅱ

担当教員 大城 博美

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

フレッシュマンセミナー

担当教員 上原 静

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学生活で必要不可欠なレポートや小論文などの基本的書き方や発表の方法を学習する。

【授業の展開計画】

テキスト（レポートや小論文）の要約と発表
発表方法（話し方）の学習
新聞の社説等を読み、縮約の学習
推薦図書のリポート作成等。

【履修上の注意事項】

3分の2以上出席すること。遅刻・欠席は減点の対象とする。

【評価方法】

レポート、討議内容をもとに評価する。

【テキスト】

随時資料を配布又は指定する。

【参考文献】

フレッシュマンセミナー

担当教員 江上 幹幸

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

自分で学習したいテーマを選び、研究していくためには、テーマに近づく方法を学ぶ必要がある。研究課題を選び、グループごとに「調べる」、「まとめる」、「書く」、「発表する」という行程を実践する中で、技術と方法を習得し、大学で学ぶということがどのような事なのかを理解する。

【授業の展開計画】

①32回形式：

- 第1週～4週 : 研究テーマの「選び方」、「調べる」、「まとめる」、「書く」、「発表する」技術と方法を教授
- 第6週～9週 : グループに分かれ、テーマ選びを実践。
- 第10週～16週 : 第一回目の調べた内容を発表。
- 第17週～22週 : 第二回目の発表
- 第23週～29週 : 第三回目の発表
- 第30週 : 総括
- 第31週～第32週 : 報告書作成

【履修上の注意事項】

意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、発表報告、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

宮内泰介『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書 2004

フレッシュマンセミナー

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講座は社会文化学科 1 年生を対象としたゼミナール形式の授業である。受講生が高校までの「勉強」から卒業して、大学で「学問」していく上で必要な技能の基本を修得することが、本講座の目標である。具体的には、論理的に「書く」「読む」「伝える」ことの基本的能力を身につけた上で、問題を発見し、資料・文献を収集し、資料・文献を読解・分析し、分析した結果を表現できるように訓練する。

【授業の展開計画】

前期は、文章の作成の仕方、文献の読解の仕方、レジュメの作成歩法をの基本的な技能を習得することを目的とする。具体的には、グループワークに基づく演習を繰り返し実施する。また、自分の作成した文章や読み取った内容を、他者に伝えることを通じて、学問的なコミュニケーション能力の基礎的な部分の育成も目指す。

後期は、問題の発見と解決に関する技能の習得を目的とする。具体的には、セミナー参加者の関心にあわせてグループをつくり、グループを単位とする調査・報告・討論を実施する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ウォームアップ：アイスブレイクをしよう！	17	調査仮テーマの決定：ブレインストーミング
2	ガイダンス：ゼミでの学びを理解しよう！	18	調査仮テーマの検証：文献検索
3	文章の書き方①：4行作文にトライ！	19	調査計画書の作成①
4	文章の書き方②：4行作文にトライ！	20	調査計画書の作成②
5	文章の書き方③：4行作文の応用編	21	グループ調査①
6	文章の書き方④：4行作文の応用編	22	グループ調査②
7	図書館オリエンテーション	23	グループ調査③
8	文章の読解①：結論を読み取る（初級編）	24	グループ調査④
9	文章の読解②：結論を読み取る（中級編）	25	中間報告①
10	文章の読解③：結論を読み取る（上級編）	26	中間報告②
11	キャリアに関する特別講義	27	中間報告③
12	レジュメをつくろう①	28	最終報告会①
13	レジュメをつくろう②	29	最終報告会②
14	学外フィールドワーク	30	最終報告会③
15	前期のふり返り	31	まとめ
16	後期ガイダンス・グループ編成		

【履修上の注意事項】

- ① ゼミナール形式の授業なので、受講生の積極的な取り組みが必要である。
- ② 個人の作業とグループでの活動を組み合わせて実施することが多いので、個人の責任を果たすと同時に、他者と協力する姿勢が求められる。
- ③ 出席は毎回必ずとる。
- ④ 後期のグループ調査の詳細は、後期ガイダンスでおこなう。

【評価方法】

出席状況（15%）、前期の課題の取組と提出の状況（35%）、グループ調査の取組状況（35%）、ゼミでの発言など報告以外の時の授業への取組み（15%）の総合評価とする。

【テキスト】

特定のものは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

テーマにあわせて適宜紹介する。

フレッシュマンセミナー

担当教員 宮城 邦治

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

新入生の皆さんが社会文化学科の専門的な講義を理解できるように、「読む力」「書く力」「話す力」の醸成を目指すものである。そのために、新書レベルの図書や新聞のニュース記事、雑誌記事などを参考に、「読む」「書く」「話す」ことを通じて表現力を高めていきたい。また、ビデオなども利用しながら、人間の心象表現や異文化への理解も深めていきたい。クラスでのディスカッションや交流を通して、活字に親しみ、他人に関心を持つ学生に変身するよう期待したい。

【授業の展開計画】

- 前期) 1週：自己紹介 2週：ゼミナールの内容説明とテキストなどの決定
 3～5週：新書レベル図書の読み合わせ(2～3冊)
 6～8週：日本語の作文技術(1200次程度のエッセイ)
 9～11週：ビデオ鑑賞(ドキュメント、異文化理解)
 12～14週：日本語を楽しむ(ジョーク、ユーモア、川柳など)
 15週：前期の総括
- 後期) 1～2週：夏季休暇中の報告
 3～5週：新聞、雑誌記事の読み合わせ
 6～8週：外国事情(旅行記など)の読み合わせ
 9～11週：ビデオ鑑賞(日本文化理解)
 12～14週：地域探訪(地域社会、文化、自然を知る)
 15週：後期の総括
 15週：年間のまとめ(ミニインタビュー)

【履修上の注意事項】

登録した学生は常に活字に親しみ、他人に関心を持ち、如何に自らの意思を伝えるかを意識すること。教室に来たら自らすすんでクラスメートに関わるようにすること。読む、書く、話す力を醸成することが自らを高める礎であることを自覚すべし。

【評価方法】

与えられた図書、新聞資料、雑誌資料等の読解力と文章力、地域巡検への参加実績などを考慮して評価する。

【テキスト】

図書、新聞、雑誌などを適宜告示または配布する。異文化理解に関するドキュメント、映画なども鑑賞する。

【参考文献】

適宜、図書の告示や新聞、雑誌などの資料記事を配布する。

フレッシュマンセミナー

担当教員 吉浜 忍

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

自らテーマを設定し、自らの頭と足で調べ、その成果となる調査報告書を作成すること。フィールドワークを実施することで、地域の歴史・文化への認識を高めると同時に、テーマ設定の動機やヒントを与える。調査や報告書作成は、前期は個人、後期はグループ（班）で取り組むことになるが、後期は内容もさることながら、発表の仕方にも創意工夫が要求される。言語力（情報収集力・整理力・論理的記述力・表現力）を養うとともに、協力共同し学ぶことの大切さとゼミカルの重要性を認識させる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	グループ編成
2	文献検索の方法	18	調査研究テーマと日程の検討
3	調査の方法	19	フィールドワーク②
4	レポート作成	20	調査研究テーマ設定理由の発表①
5	フィールドワーク①	21	調査研究テーマ設定理由の発表②
6	個人テーマ設定	22	調査研究テーマ設定理由の発表③
7	テーマ設定理由と計画の発表①	23	グループ別調査研究
8	テーマ設定理由と計画の発表②	24	グループ別調査研究
9	各自調査研究 ①個別指導	25	中間報告会
10	各自調査研究 ②個別指導	26	グループ別調査研究
11	研究レポート発表①	27	発表会①
12	研究レポート発表②	28	発表会②
13	研究レポート発表③	29	発表会③
14	研究レポート発表④	30	後期まとめ
15	前期まとめ	31	
16	ガイダンス		

【履修上の注意事項】

- (1) 受身的や他人まかせではなく、常に知的探求心・好奇心あふれる気概をもつこと。
- (2) フィールドワークはレポート提出を義務付ける。
- (3) 前期は、個人が沖縄の歴史文化をテーマに調査研究、発表する。後期は2年次以降の専門を見据えて、原則3人でグループを編成しテーマを設定する。いずれも文献調査・現地（現場）調査を重視する。

【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 20点
 - ②課題レポート 20点
 - ③前期調査レポート・発表 30点
 - ④後期調査研究レポート・発表 30点
- ①+②+③+④=100点満点で評価する。

【テキスト】

自作の資料・教材をテキストとして使用する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

文化史 I

担当教員 宮里 正子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 社会コースは選択科目・受講年次は2年

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

文化史Ⅱ

担当教員 宮里 正子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 社会コースは選択科目・受講年次は2年

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

文化人類学概論

担当教員 石垣 直

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「文化人類学」とは、「文化」というキーワードを基礎としながら、世界各地の諸社会および総体としての人類社会について、その多様性と共通性を明らかにしていこうとする学問分野である。本講義では、「人間と文化」という視点から人類社会に関わるさまざまなトピックを取り上げて、人類とは何か、人間社会とは何かについて考えていく

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「文化」とは何か？——人類学と「異文化」理解
3	文化人類学の方法論——「社会・文化」を読み解くために
4	映像鑑賞
5	家族と親族（1）——親族研究の基礎と人類学
6	家族と親族（2）——キンドレッド／出自／婚姻
7	贈物のヒミツ——贈与・交換の原理と「社会」
8	認識／コミュニケーション／儀礼
9	「死」の扱い方と宗教——究極問題へのアプローチ
10	映像鑑賞
11	政治と権力——人類社会における諸政治形態と権力
12	身体とジェンダー——オトコ（△）であること、オンナ（○）になること
13	自然／環境／資源化——人類と自然・環境との関係
14	アイデンティティ／民族／ナショナリズム
15	まとめ——「人類社会理解」への果敢な挑戦
16	筆記試験

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（30％）、筆記試験（70％）

毎回の授業時に、出席および授業参加姿勢を確認するため、レスポンス・ペーパー（感想、コメント、質問）の提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（授業でレジュメおよび資料を配布）。

【参考文献】

石川栄吉ほか(編)1995『文化人類学事典』弘文堂
米山俊直(編)1995『現代人類学を学ぶ人のために』世界思想社

文化人類学概論Ⅱ

担当教員 江上 幹幸

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人類がどのようにしてアフリカから旅たっていったか、人類はどのような戦略をもって世界に広がっていったのか、アジアに移り住んだ人類はどのように進化し、どのような文化を作り出したかを学ぶ。

【授業の展開計画】

1 6回形式：

第1週～3週	化石人類とは
第4週～5週	化石人類史
第6週～13週	人類がたどってきた道
第14週～15週	モンゴロイドとは
第16週	試験

【履修上の注意事項】

意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

三井誠『人類進化の700万年－書き換えられる「ヒトの起源」』講談社現代新書 2005年

平和運動史

担当教員 西岡 信之

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

安倍政権が、急速に戦争国家づくりを進めています。特定秘密法の強行採決、国家安全保障会議の創設、新防衛大綱の策定、集団的自衛権の行使容認など軍事大国化をめざしています。また尖閣諸島(釣魚島)や竹島(独島)などの領有権問題や政府関係者の靖国神社参拝、日本軍「慰安婦」などアジア太平洋戦争の歴史認識をめぐって中国や韓国、北朝鮮など厳しい対立が続き、北東アジアの平和を脅かしています。戦争前夜のような危機的な状況の下、日米軍事一体化がすすむ沖縄は、もっとも危険な地域にさらされています。現在の日本・沖縄をめぐる局面を平和学的にどう認識し、この局面を平和的にどう解決していくのか、武力なき平和構築を考えます。

【授業の展開計画】

すべての授業を通じて、意見や感想を交流し、平和について考えます。講義は、DVDやビデオなどの映像を活用して、わかりやすい講義をめざしています。

週	授 業 の 内 容
1	平和学入門ガイダンスー 今こそ、軍事力ではなく平和を
2	安倍政権の戦争国家づくりを考える
3	日米安保条約から日米軍事一体化へ
4	東アジアの平和をー 一国境の島の領有権を考える
5	ヘイト・スピーチとは何かー 嫌韓・反中を乗り越えて
6	靖国神社と沖縄戦ー 戦争犠牲者の合祀取り消し裁判
7	朝鮮半島からの若者たちー 日本軍「慰安婦」問題
8	朝鮮半島からの若者たちー 朝鮮人軍夫問題
9	沖縄戦を学ぶー 沖縄戦記録フィルム1フィート運動の会
10	憲法九条・非暴力平和思想の具現化ー 無防備地域宣言運動
11	普天間移設・辺野古新基地問題
12	多発する内部被曝問題ー 福島原発事故から
13	格差・貧困のない社会をー 奨学金返済問題
14	格差・貧困のない社会をー ブラック企業問題
15	武力なき平和の構築へー 戦わない平和思想
16	補講等、調整日

【履修上の注意事項】

私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかる行為はしない。また大幅な遅刻や早退、途中退席などは、授業参加姿勢に課題があると評価します。

【評価方法】

出席票に講義に関する感想、意見、質問などのコメントを毎回書いていただきます。それによって出欠状況と授業参加姿勢を見ます。期末にレポートを提出していただきます。出席状況、授業参加姿勢、レポートで評価を行います。試験は基本的にありません。

【テキスト】

『ピース・ナウ沖縄戦ー 無戦世界のための再定位』(法律文化社)2011年12月発行。また必要に応じて、レジュメと参考資料を配布します。

【参考文献】

『市民の平和力を鍛える』前田朗著、(ケイ・アイ・メディア)。その他、講義の中でその都度紹介する。

平和学概論

担当教員 鳥山 淳

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、いくつかの具体的な問題に焦点を当てながら、平和学の入口を紹介していくことにしたい。いま沖縄で問われ続けていることを出発点としつつ、一方では世界に視野を広げ、他方で身近な暴力性を問い直すことによって、平和学の広がりや理解することをめざしている。そして、社会的な取り組みの場に足を運び何かを感じ取ることも、平和学の重要な要素である。レポートの課題を通して、そのきっかけをつかむようにしたい。

【授業の展開計画】

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 構造的暴力の視点
- 第3回 戦争と国家① 愛国心の形成
- 第4回 戦争と国家② 総力戦の世紀
- 第5回 戦争と国家③ メディアと世論
- 第6回 戦争と国家④ 隠された被ばく
- 第7回 戦争と国家⑤ 軍産複合体
- 第8回 沖縄の基地を考える① 難民という視点
- 第9回 沖縄の基地を考える② 冷戦の負の遺産
- 第9回 沖縄の基地を考える③ なぜ沖縄なのか
- 第10回 沖縄の基地を考える④ 軍隊と性暴力
- 第11回 沖縄の基地を考える⑤ 分断される地域
- 第12回 人々の経験をつなぐ① 韓国にとっての戦後
- 第13回 人々の経験をつなぐ② 原発と地域
- 第14回 人々の経験をつなぐ③ 貧者の徴兵制
- 第15回 人々の経験をつなぐ④ 「安楽」への全体主義
- 第16回 学期末テスト

【履修上の注意事項】

小レポート作成のために、授業日以外の取り組み（1日）が必要となることを承知しておくこと。

【評価方法】

学期末テスト50%、小レポート25%、参加姿勢25%

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、必要な資料は教室で配布する。

【参考文献】

石原昌家ほか編『沖縄を平和学する！』（法律文化社、2005年）
最上敏樹『いま平和とは』（岩波新書、2006年）

平和学 I

担当教員 玉城 福子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、ジェンダー、セクシュアリティ、植民地主義の視点から社会を見ることで、これまで「当たり前」だと思っていた身近な出来事を批判的に考える力を身につけることを目的とする。題材として、沖縄の歴史や性暴力の問題（具体的には、デートDV、沖縄戦時の日本軍「慰安婦」制度、戦後の米兵による性暴力など）を取り上げる。

【授業の展開計画】

第一回目のイントロダクションでは、本講義の目的や扱うテーマについて確認する。また、評価の方法や試験の形式についても説明する。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	ジェンダー：基礎
3	ジェンダー：歴史と発展
4	ジェンダー：応用
5	事例を通じて考える①：デートDV
6	セクシュアリティ：基礎
7	セクシュアリティ：歴史と発展
8	セクシュアリティ：応用
9	事例を通じて考える②：日本軍「慰安婦」制度
10	ゲストスピーカーによる講演会（詳細は授業内で指示する）
11	植民地主義：基礎
12	植民地主義：歴史と発展
13	植民地主義：応用
14	事例を通じて考える③：米兵による性暴力
15	講義のまとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

受講生の数によっては、授業のスケジュールや評価方法を変更する可能性がある。

【評価方法】

出席30%、試験70%をもとに総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは指定しない。適宜、資料を配布する。

【参考文献】

関口久志、2009年、『性の“幸せ”ガイドー若者たちのリアルストーリー』エイデル研究所。

本橋哲也、2005年、『ポストコロニアリズム入門』岩波書店。

シンシア・エンロー、2006年、『策略ー女性を軍事化する国際政治』岩波書店。

平和学Ⅱ

担当教員 石川 朋子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

平和思想

担当教員 安良城 米子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄は日本国内でも世界情勢の変化を最も受けやすい位置にある。そこで平和に対する思考、意識はその社会を安定的、発展的に成立させる最も基礎となる要因である。本講義では、まず琉球・沖縄の平和思想をその歴史から紐解く。1800年代の異国船の航海記に見る琉球、明治政府による軍隊配備に抵抗する琉球、そして戦後沖縄の平和運動にみる非暴力的抵抗の思想と行動の中から、沖縄の平和思想を見出したい。同時に、マハトマ・ガンディーとマーティン・ルーサー・キングの「非暴力」思想と手段を概観する。平和構築の対処に非暴力の思想と手段がいかに現実的で効果的かを明らかにする。

【授業の展開計画】

琉球に来航した異国船への琉球の人びとの対応は、あくまでも非軍事的対応であった。戦後においては米軍との折衝や抵抗の際「非暴力」での抵抗であったことなどを概観する。それが、現在の住民の基地建設反対の闘いに継承されている。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	19世紀の異国船の航海記から—その対応と琉球
3	19世紀後半の琉球国併合期の琉球社会の動向
4	徴兵忌避と救国運動
5	日本軍部の資料にみる沖縄県民観
6	1950年代「土地闘争」—阿波根昌鴻さんを通して
7	沖縄の平和運動にみる非暴力抵抗
8	中江兆民の思想—『三酔人経綸問答』から
9	非暴力とは
10	欧米の文献にみる琉球①—欧米のモデルとされた「平和国家」琉球
11	欧米の文献にみる琉球②—『リリアン・チン書簡』から
12	マハトマ・ガンディーの非暴力行動と思想
13	マハトマ・ガンディーの非暴力行動と思想
14	マーティン・ルーサー・キング牧師の非暴力行動と思想
15	マーティン・ルーサー・キング牧師の非暴力行動と思想
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語、携帯電話など周囲に迷惑のかかることは慎む。

やむを得ず欠席する場合、事前にあるいは欠席した翌週に、その旨を届け出用紙に記入し担当教員（安良城）に提出すること。

【評価方法】

毎回出席用紙を配布し講義に関してのコメントを書いてもらう（30%）。それにより出席と授業参加姿勢をみる。レポート提出（40%）と期末試験（30%）を行い総合的に判断し評価する。

【テキスト】

毎回講義のレジュメと資料を印刷して配布する。DVDなどの視覚教材も用いる。

【参考文献】

『非暴力トレーニングの思想』阿木幸男、『非暴力』阿木幸男、『異国船来琉記』須藤利一訳 法政大学出版局、『米軍と農民』阿波根昌鴻著 岩波書店、その他、その都度紹介する。

平和と法

担当教員 高良 鉄美

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

マイノリティ論

担当教員 ダグラス トライカット

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

マスコミ論

担当教員 比嘉 要

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

民俗学Ⅰ

担当教員 栗国 恭子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域社会（日本）の暮らす人々に伝わったさまざまな生活文化、その変遷を通して、人（日本）・文化（日本）を明らかにする学問が（日本）民俗学である。1週から4週は民俗学の成立と学説史を取り上げ「民俗学とはどのような学問か」の基本を確認する。民俗学Ⅰでは、民俗学のテーマから衣・食・住＜イエとムラ＞で人々の生活と社会の文化を、＜年中行事＞＜人生儀礼＞では時間の民俗を、＜民俗信仰＞では人々の心意文化のテーマを紹介し、生活文化に向き合う学問の視点を確認する。

【授業の展開計画】

- 1週目 民俗学の成立と展開 生活文化を学ぶ意味 民俗学の考え方(民俗学の研究対象・目的・方法)、文化人類学(民族学)との違い、外国の民俗学
- 2週目 民俗学の歴史—日本民俗学①柳田國男、折口信夫、南方熊楠
- 3週目 民俗学の歴史—民具学②渋沢敬三、宮本常一、民藝と民俗 有賀喜左衛門、柳宗悦
- 4週目 沖縄と民俗学 伊波普猷、末吉安恭、金城朝永、比嘉春潮 <南島研究>の時代変遷
- 5週目 生活と民俗① 衣
- 6週目 生活と民俗② 食
- 7週目 生活と民俗③ 住
- 8週目 社会と民俗① 社会の民俗(イエとムラの民俗)
- 9週目 社会と民俗② 家・家族
- 10週目 社会と民俗③ 性と民俗(女と男の民俗)
- 11週目 時間と民俗① 繰り返される時間 年中行事、祭
- 12週目 時間と民俗② 人の成長と人生(子供、大人、老人)
- 13週目 信仰と民俗① 生と死の民俗(出産・葬儀の民俗)
- 14週目 信仰と民俗② 神と靈魂の民俗(祖先祭祀、他界観と民俗)
- 15週目 信仰と民俗③ 境界と怪異の民俗(異人:鬼・河童・天狗・狸の民俗)
- 16週目 テスト

【履修上の注意事項】

図書館の図書分類380コーナーにある民俗学関連資料にふれ学問のイメージを膨らませてほしい

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末試験(課題筆記試験)で評価する

【テキスト】

指定テキストは特になし。その他:講義用のレジュメ・資料は配布する。映像・ビデオ資料などを使用し、テーマごとの重要な参考文献は講義中に紹介する。

【参考文献】

*佐野賢治・谷口貢他編『現代民俗学入門』吉川弘文館、1996年 *福田アジオ・古家信平ほか編『図説日本民俗学』吉川弘文館、2009年 *谷口貢・松崎憲三編『民俗学講義—生活文化へのアプローチ』八千代出版、2006年 *新谷尚紀編『民俗学がわかる事典』日本実業出版社、1999年 ほか

民俗学Ⅱ

担当教員 栗国 恭子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域社会（日本）の暮らす人々に伝わったさまざまな生活文化、その変遷を通して、人（日本）・文化（日本）を明らかにする学問が（日本）民俗学である。1週から4週は民俗学の成立と学説史を取り上げ「民俗学とはどのような学問か」の基本を確認する。民俗学Ⅱでは民俗学のテーマから＜自然と環境：海・山・里＞の生活文化を紹介し、＜ものづくりと技・民具論＞で暮らしと造形文化について学び、＜語りの民俗＞＜都市と民俗＞を取り上げ多様なテーマの存在と、また現代民俗学の課題を確認しながら、生活文化に向き合う学問の視点を捉える。

【授業の展開計画】

*民俗学Ⅰ・Ⅱは単独登録可能のため、1～4週目が同内容

- 1 週目 民俗学という学問 生活文化を学ぶ意味 民俗学の考え方(民俗学の研究対象・目的・方法)、文化人類学(民族学)との違い、外国の民俗学
- 2 週目 民俗学学説史①—日本民俗学①柳田國男、折口信夫、南方熊楠
- 3 週目 民俗学学説史②—民具学②渋沢敬三、宮本常一、民藝と民俗 有賀喜左衛門、柳宗悦
- 4 週目 沖縄と民俗学 伊波普猷、末吉安恭、金城朝永、比嘉春潮 <南島研究>の時代変遷
- 5 週目 自然と環境の民俗学① 海に生きる人々
- 6 週目 自然と環境の民俗学② 山と川に生きる人々
- 7 週目 自然と環境の民俗学③ 里に生きる人々
- 8 週目 自然と環境の民俗学④ 物と人の交流、移動する人々、都市に生きる人々
- 9 週目 ものづくりと技・民具論①
- 10 週目 ものづくりと技・民具論②
- 11 週目 語りの民俗① 口承文芸(昔話・伝説・世間話の民俗)
- 12 週目 語りの民俗② 記憶の問題 戦争の民俗 回想法
- 13 週目 都市と民俗 都市と地方・農村 限界集落・過疎
- 14 週目 現代民俗学の課題① 比較民俗学への道(環東シナ海文化圏の民俗)
- 15 週目 現代民俗学の課題② 現代の民俗学の課題
- 16 週目 テスト

【履修上の注意事項】

図書館の図書分類380コーナーにある民俗学関連資料にふれ学問のイメージを膨らませてほしい

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末試験（課題筆記試験）で評価する

【テキスト】

指定テキストは特になし。その他：講義用のレジュメ・資料は配布する。映像・ビデオ資料などを使用し、テーマごとの重要な参考文献は講義中に紹介する。

【参考文献】

*佐野賢治・谷口貢他編『現代民俗学入門』吉川弘文館、1996年 *福田アジオ・古家信平ほか編『図説日本民俗学』吉川弘文館、2009年 *谷口貢・松崎憲三編『民俗学講義—生活文化へのアプローチ』八千代出版、2006年 * 新谷尚紀編『民俗学がわかる事典』日本実業出版社、1999年 ほか

民俗学概論

担当教員 稲福 みき子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

琉球・沖縄史入門

担当教員 上原 静

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では4名の担当教員がオムニバス形式で、沖縄の先史古代から近世、近現代までの枠組みの中から、各テーマを挙げて紹介し、琉球・沖縄の独自性や特質性を理解するとともに、その見方、考え方を学んでもらう。また、講義は今後の専攻ゼミを選択する興味、関心の素材提供として考えてもらう。

【授業の展開計画】

昔と今の発掘調査
沖縄考古学の誘い
沖縄人のルーツ
先史時代のレシピ
太陽の子と天女の子
護佐丸VS阿麻和利
沖縄の墓はデカイ
シーサーはいつ屋根に登ったか
沖縄戦の記憶
ゼロからのスタート
ネコとネズミ
沖縄を返せ
琉球王国から沖縄県へ
沖縄と大和とのはざま
沖縄をはなれたウチナンチュ

【履修上の注意事項】

遅刻・欠席は減点の対象とする。

【評価方法】

各担当教員ごとに理解度テストを行う。

【テキスト】

講義毎に資料を配布する。

【参考文献】

講義毎に紹介する。

琉中交流史

担当教員 田名 真之

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球と中国（明清朝）との関係を中心に古琉球から近世の対外関係について考える。『歴代宝案』や『評定所文書』、『冊封使録』などの史料を通して、冊封、進貢、貿易、学問、教育、芸術等々、琉球・中国間の諸々について見ていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論、概要
2	冊封① 冊封体制
3	冊封② 冊封使録
4	進貢① ー進貢船・使節ー
5	進貢② ー貿易ー
6	漂流・漂着① ー送還体制ー
7	漂流・漂着② ー琉球から中国へー
8	漂流・漂着③ ー様々な漂流ー
9	冊封使の渡来① ー歓待の準備ー
10	冊封使の渡来② ー儀式・評価(貿易)ー
11	留学生① ー官生〈国費留学生〉
12	留学生② ー勤学〈私費留学生〉
13	御後絵の世界 ー国王の肖像画ー
14	琉球処分① ー処分の経過ー
15	琉球処分② ー脱清人の嘆願書ー
16	期末試験

【履修上の注意事項】

史料(候文や漢文)を読むことが多いので、予習復習を心がけること。授業には質問その他積極的に関わること。

【評価方法】

出欠及びテストにより評価する。

【テキスト】

プリント、資料を配付する。

【参考文献】

豊見山和行編『琉球・沖縄史の世界』（吉川弘文館、2003）、安里進ほか『沖縄県の歴史』（山川出版社、2004）。その他の適宜紹介。

歴史学概論

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

「歴史は暗記すれば良い」とか「過去の出来事を学んでも意味がない」という声を聞く。また、現代社会では、世界各地で過去の出来事をめぐる摩擦が生じている。そこで、本講義では、歴史を学ぶ目的を確認した上で、人間が過去の出来事をどのように認識してきたのかについて考察する。そして、過去の出来事をめぐる問題についての実態を確認し、課題の所在を把握する。これにより、歴史を学ぶ上で、学ぶ人間がその所属する社会の影響を受けていることを理解し、その前提に立って歴史を学ぶことの意義を考えられるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？
2	イントロダクション：なぜ、どのように歴史を学ぶのか？
3	社会と歴史認識の関係①（ギリシア・ローマ①）
4	社会と歴史認識の関係②（ギリシア・ローマ②）
5	社会と歴史認識の関係③（ヨーロッパ中世社会の特徴）
6	社会と歴史認識の関係④（中世社会と普遍史の成立）
7	社会と歴史認識の関係⑤（ルネサンス的歴史認識）
8	社会と歴史認識の関係⑥（啓蒙主義の時代と進歩史観）
9	社会と歴史認識の関係⑦（19世紀ヨーロッパ世界とロマン主義）
10	社会と歴史認識の関係⑧（ランケと近代歴史学の成立）
11	社会と歴史認識の関係⑨（唯物史観とアナル派）
12	現代の「歴史問題」①（ヨーロッパの事例）
13	現代の「歴史問題」②（アジアの事例）
14	現代の「歴史問題」③（「沖縄」の事例）
15	現代の「歴史問題」④（問題の所在と克服へ向けて）
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は社会文化学科1年次対象の必修科目であり、基礎科目として位置づけられている。
- ② 2年次以上の学生については、旧カリの「歴史学概論」の読替科目として設定されている。
- ③ 他学部・他学科の学生でも、歴史学に興味のある意欲の持った学生であれば歓迎する。
- ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。

【評価方法】

学期末試験（60%）、ワークシート（25%）および平常点（15%）による総合評価とする。
なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明する。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

【参考文献】

- ①山本博文『歴史をつかむ技法』（新潮社、2013年）、②弓削達『歴史学入門』（東京大学出版会、1986年、③E.H.カー『歴史とは何か』（岩波書店、1962年）、④南塚信吾『世界史なんていらん？』（岩波書店、2007年）、他